

2025年度

Syllabus

講義要綱

歯科衛生士科



一般社団法人旭川歯科医師会立
旭川歯科学院専門学校

教科目		各学年単位数				頁
		1年	2年	3年	総単位数	
基礎分野	生物	2			2	1
	化学	2			2	2
	心理学	2			2	3
	教育学	1			1	4
	英語	2			3	5
	10 英語(歯科医科基礎英語)	1				6
専門基礎分野	解剖学	2			2	7
	生理学	2			2	8
	生化学	1			1	9
	組織発生学	2			2	10
	口腔解剖学	2			3	11
	歯牙解剖学	1				12
	口腔生理学	1			1	13
	病理学	1			2	14～15
	口腔病理学	1				16～17
	微生物学	2			3	18
	免疫学		1			19
	薬理学(歯科薬理含む)	2			2	20
	保健生態学	6			6	21～22
	衛生統計学		1		1	23
	27 衛生行政・社会福祉学			2	2	24
専門分野	歯科衛生士概論	2			2	25
	歯科臨床概論	1			1	26
	保存修復学	1			1	27
	歯内療法学	1			1	28～29
	歯周治療学		2		2	30
	歯科補綴学		2		2	31～32
	歯科矯正学		2		2	33
	口腔外科学		2		2	34
	小児歯科学		2		2	35～36
	高齢者歯科学		1		1	37
	心身障がい者歯科学		1		1	38
	歯科放射線学		2		2	39
	歯周病予防処置	3	3		6	40～43
	う蝕予防処置	1	1		2	44～45
	歯科保健指導論	3	4		7	46～51
	栄養指導	1			1	52～53
	栄養学	1			1	54
	歯科材料学	1			1	55
	臨床検査		1		1	56
	歯科診療補助論・実習(介護実習含む)	3	4		7	57～62
	65 臨床実習(臨地実習含む)	2	5	13	20	63
選択必須分野	総合学習			2	2	64
	行動科学		1		1	65
	接遇		1		1	66
	看護学概論		1		1	67
	摂食・嚥下訓練法			1	1	68
	救急蘇生法		1		1	69
8	健康保険請求事務			1	1	70
総計		53	38	19	110	

科目名		単位	時間	学年	開講期
生物		2単位	30時間	1学年	前期
担当講師	室屋 秀憲				
実務経験		経歴	教員免許を持ち高等学校で当該科目を教授していた教員が教育を行う。		

1 授業目標

生命活動の様々なしくみを学習し、人間の体の成り立ちや働きを理解する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	生命とは何か	生命をつくる物質
2	生命の誕生と変遷	原始大気、地質時代と生物
3	生物をつくる物質	水・タンパク質・核酸・動物細胞
4	細胞の活動	酵素・ATP・細胞呼吸
5	細胞の一生	体細胞分裂、アポトーシスとネクローシス、組織・器官
6	生殖	減数分裂
7	遺伝	DNA
8	発生	受精と器官形成
9	刺激の受容と反応	感覚器と筋肉
10	刺激の伝達	ニューロン、中枢神経と末梢神経
11	内部環境	ホメオスタシス
12	ホルモンと自律神経	ホルモンと自律神経の協調作用
13	生体防御	免疫
14	動物の行動	生得的行動・習得的行動
15	ヒトの進化と未来	ヒトの進化

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学学シリーズ「生物学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

プリント

6 評価の方法

定期試験(90%)・レポート(5%)・授業態度(5%)などを総合的に判断して評価する。

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
化学		2単位	30時間	1学年	前期
担当講師	旭 昭男				
実務経験		経歴	教員免許を持ち高等学校で当該科目を教授していた教員が教育を行う。		

1 授業目標

化学の基礎知識とまた人体をはじめとした生体を形成している化学物質について理解する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	物質とは何だろう①	物質の種類、物質の構造、原子の電子配置
2	物質とは何だろう②	元素の周期律、物質量、化学結合
3	気体について知ろう①	気体のルール
4	気体について知ろう②	空気は何から、気体を使う
5	物質が水に溶けるとは①	水溶液とは、水溶液の性質
6	物質が水に溶けるとは②	コロイド溶液とは、酸とアルカリ
7	酸化、還元とは①	酸化と還元
8	酸化、還元とは②	金属のイオン化傾向
9	化学反応①	化学反応
10	化学反応②	化学平衡
11	有機化合物とは何だろう①	有機化合物
12	有機化合物とは何だろう②	代表的な化合物と性質、高分子化合物
13	ヒトをつくっているもの①	水、ヒトを形づくる元素、糖質
14	ヒトをつくっているもの②	アミノ酸とタンパク質、脂質、核酸と関連物質
15	まとめ	今までの学習のまとめ

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「化学」 医歯薬出版 、 配布プリント

5 参考図書・資料

読んで楽しむからだの化学 佐藤博保＝著 講談社

6 評価の方法

定期試験(90%)、授業態度(10%)を総合的に考慮して評価する。

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
心理学		2単位	30時間	1学年	前期
担当講師	宮崎 拓弥				
実務経験	○	経歴	病院で心理検査士として勤務された経験を持ち現在北海道教育大学で当該科目を教授している教員が教育を行う。		

1 授業目標

人のこころの働きについての基礎的・基本的事項について理解することを目的とする。また、効果的なコミュニケーションについて学び、実践できるようになることを目指す。

2 授業計画

回	項目	内容
1	感覚	多様な感覚
2	知覚	不思議な知覚現象
3	記憶1	記憶の基礎
4	記憶2	記憶の応用
5	動機づけ1	動機づけの基礎
6	動機づけ2	動機づけの応用
7	感情1	感情の基礎
8	感情2	感情の応用
9	パーソナリティ	性格
10	自分を知る	自分の性格
11	発達1	発達の基礎
12	発達2	発達の応用
13	発達3	発達段階
14	コミュニケーション1	コミュニケーションの基礎
15	コミュニケーション2	コミュニケーションの応用

3 授業形態

講義・グループワーク

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「心理学」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

講義内で適宜紹介する。

6 評価の方法

定期試験(90%)、授業態度(10%)により総合的に評価する。

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
教育学		1単位	20時間	1学年	前期
担当講師	西嶋 潤一				
実務経験		経歴	教員免許を持ち、高等学校で関係科目を教授している教員が、教育を行う。		

1 授業目標

教育学には人間学はじめ幅広い要素が含まれる。本学で数少ない文系教養講義として、学生それぞれの人間性を涵養することが求められている。知識・技能を身につけ、基本的な考え方を学び、平和を尊ぶ国際社会に生きる人間として成長することを期待したい。教育学の分野での「不易と流行」を踏まえ、自ら考え行動し、お互いの人格や個性を尊重し、たくましく生きる力を身につけたい。

講義では、現代社会の課題を考える多様なテーマを扱い、自ら主体的に考え学ぶ姿勢を身につけ、今後の職業生活、さらには人生に必要なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。

2 授業計画

順序が前後することがあります

回	項目	内容
1	人はなぜ、学ぶのか(1)	自己紹介、講義ガイダンス、学問とは何か、真理とは
2	人はなぜ、学ぶのか(2)	絶対と相対、学びの有用性、楽しく学ぶためには
3	人間関係論(1)	「いじめ」の論理、「いじめ」は無くすることができる
4	人間関係論(2)	差別、ジェンダー論、差別や戦争を無くするには
5	作文・小論文の基本と心得(演習1)	基本を確認し、表現する力を身につける
6	作文・小論文の基本と心得(演習2)	自分の意見をまとめ、正しく伝える、まとめる
7	身近なニュースを題材に考える(1)	感染症の歴史から、社会の在り方、生命の重さを考えよう
8	身近なニュースを題材に考える(2)	弱い立場を想像すること、ボランティア、バリアフリーの意味
9	自己の生き方を考える(1)	歯科衛生士の現状、職業人としての考え方
10	自己の生き方を考える(2)	多様な価値観の中での自己の生き方、講義のまとめ

3 授業形態

講義と演習

4 教科書

特に教科書は使用せず、毎時間のプリント、配付資料で進める

5 参考図書・資料

授業の中で紹介し、コピー等の資料を配付する

6 評価の方法

定期試験、2回の課題作文、出席状況、講義への関心・意欲・態度を総合的に考慮して評価する

定期試験(60%)、課題作文(20%)、講義受講の態度等(20%)を、基本として評価する

7 その他

毎回、A4サイズの記入式レジュメを配布しノートとする

資料も基本A4サイズで配布するので、A4用のフラットファイル等を用意し配付資料を綴ること

配布資料をもとに定期試験を実施する

科目名		単位	時間	学年	開講期
英語		2単位	30時間	1学年	前期
担当講師	ジェフリー・カー				
実務経験		経歴	旭川大学で当該科目を教授する教員が教育を行う。		

1 授業目標

歯科医療について最低必要な用語を学び、外国の歯科関係文献で最新情報を得るためにも、読解力を身につけさせる
使用頻度の高い基本的な単語の習得。読解力を高めるため長文対話文の解釈
簡単な英作文の練習

2 授業計画

回	項目	内容
1	Introductions, Textbook Survey, Study methods and goals discussion, English journal	
2	Textbook, Unit1, Talking about yourself and your environment	
3	Unit2 – “do, does” forms	
4	Unit3 – past tense review	
5	Unit4 – Reception, “May I …?” “Could you …?” , journal check point 1	
6	Unit5 – “have” form, Common medical complaints	
7	Unit5 – conversation practice, review	
8	DVD – “Super Size Me” – viewing, skit assignment (due end of term)	
9	Unit6 – appointments, “I’d like to” form	
10	Unit6 – conversation practice, review, skit practice	
11	Unit7 – Basic dental terms, “There” form, journal check point2	
12	Unit7 – conversation practice, review	
13	Unit8 – Body parts and related language	
14	Unit8 – conversation practice, review, skit practice	
15	skit assignment, test review	

3 授業形態

講義

4 教科書

Vital Signs ポスピタル・イングリッシュ [改訂版]

5 参考図書・資料

プリント Dental English Handbook
1 English Ruled Notebook

6 評価の方法

定期試験80% 復習問題10% クラスルームディスカッション10%を基本とした総合評価

7 その他

日常の語と異なる専門用語を早く覚え、語彙数を増やして欲しい

科目名		単位	時間	学年	開講期
英語(歯科医科基礎英語)		1単位	16時間	1学年	後期
担当講師	齋藤 恵美子				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
歯科医院での実際の場面を想定し、そこで使われる語句や表現を学び、自分がその場にいることを想定しながら、理解を深めていく。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	Unit1	Appointment			
	Unit2	At the Reception Desk(1)			
2	Unit3	Before the Treatment (1)			
	Unit4	At the Reception Desk (2)			
3	Unit5	Before the Treatment (2)			
	Unit6	Taking an X-ray			
4	Unit7	Dental Care			
	前半のまとめ				
5	Unit8	How to Brush Your Teeth			
	Unit9	Smoking and Eating Habits			
6	Unit10	How to Prevent Gum Disease			
	Unit11	Dental Health of Infants			
7	Unit12	Dental Health Activities			
	Unit13	At an Adult Daycare Center			
8	全体のまとめ				
3 授業形態					
講義、小テスト、レポート					
4 教科書					
English for Dental Hygienists 萌文書林					
5 参考図書・資料					
特になし					
6 評価の方法					
出席点（講義時の小テストやレポート等）40%、定期試験60%を合わせて100%として評価する。					
7 その他					
特になし					
※コロナ感染状況に応じて、一部内容と順序が大幅に変更されることがありますので、その都度、連絡します。					

科目名		単位	時間	学年	開講期
解剖学		2単位	30時間	1学年	前期
担当講師	市川 徹				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

医学の基礎として、人体の形・構造とその成り立ちを知る。さらに人体の構造と機能は表裏一体であるから機能(働き)も併せて学習する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	解剖学概論	解剖学で学ぶこと
2	骨格系	構造と機能
3		
4	筋系	構造と機能
5		
6	消化器系	構造と機能
7	循環器系	構造と機能、脈管系、心臓
8		
9	神経系	構造と機能、中枢神経系、末梢神経系
10		
11	呼吸器系	構造と機能、上気道、下気道
12		
13	感覚器	構造と機能、外皮、特殊感覚器
14	内分泌系	構造と機能、内分泌器官
15	生殖器系	構造と機能、男性生殖器、女性生殖器

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 「解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

「人体解剖学」 藤田恒太郎著

6 評価の方法

定期試験100%にて評価とする。

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
生理学		2単位	32時間	1学年	前期
担当講師	田中 統代子				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

人体は10兆個もの細胞で構成され、それぞれが正常に機能することで、私たちは日常生活を送ることができます。
生理学では、人体を構成する臓器、組織、細胞がどのような役割を果たしているかを学んでいきます。

2 授業計画

回	項目	内容
1	細胞	細胞の構造と基本的生理機能
2	筋と運動	筋の構造と機能、運動
3	消化・吸収	口腔・胃・小腸・大腸の機能
4		
5	循環	血管の機能、血液の機能、心臓の機能
6		
7		
8	神経系	神経系の基本的機能 中枢神経・末梢神経の作用 神経系の主な伝導路
9		
10	呼吸	呼吸の意義、換気の仕組み、呼吸の調節
11	感覚	活動電位について 皮膚の感覚装置と機能 特殊感覚器の構造と機能
12	排泄	皮膚からの排泄、排便、排尿
13	体温	体熱の産生・放散、体温の変動
14	内分泌	内分泌器とホルモンの機能
15		
16	生殖	受精と妊娠、性周期、分娩と乳汁分泌

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

特になし

6 評価の方法

定期試験 100%

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
生化学		1単位	20時間	1学年	前期
担当講師	辻 任				
実務経験	○	経歴	口腔保健センターにて歯科医師業務を実践している教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

歯科衛生士は口腔という食物の入り口から健康を考える専門職であり、職務の1つとして栄養指導を行う。「代謝」に代表される「生化学」は、栄養学を学ぶための基盤として、さらに「口腔生化学」は食を支える口腔の機能や口腔で生じる疾患を学ぶ基盤となる。
食物として摂取した栄養素を、私たちがどのように消化・吸収し、エネルギーを獲得したり、必要な物質を合成したりするのかを理解することと、口腔における特徴的な形態および機能についても理解する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	生体の構成要素	①細胞の役割 ②人体における水 ③人体構成成分の構造と種類
2	生体における化学反応	①消化と吸収 ②酸素の運搬と二酸化炭素の排出 ③代謝
3	糖質、脂質、タンパク質の代謝、相互関連	①消化、吸収、代謝の全体像 ②糖質と脂質の代謝 ③タンパク質とアミノ酸の代謝
4	遺伝子とタンパク質合成	①DNAと遺伝子 ②遺伝子の発現とタンパク質の合成
5	人体における恒常性の維持	①恒常性(ホメオスタシス)とは ②ホルモン系と自律神経系
6	歯と歯周組織の生化学	①歯と歯周組織 ②歯周組織の主要成分としての結合組織 ③歯
7	硬組織の生化学	①血清カルシウムの恒常性とその調節機構 ②骨形成と石灰化のメカニズム ③骨吸収と骨リモデリング ④歯の脱灰と再石灰化
8	唾液の生化学	①唾液の組成と機能 ②唾液に含まれる無機質の組成と機能 ③唾液に含まれる有機質濃度
9	プラークの生化学	①プラーク ②プラークによるう蝕発生機構 ③プラークによる歯周病発生機構
10		④プラークや舌苔による口臭発生機構 ⑤プラークと歯石

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 「生化学・口腔生理学」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

スタンダード生化学・口腔生化学 第2版 学健書院

6 評価の方法

定期試験100%

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
組織発生学		2単位	30時間	1学年	前期
担当講師	佐藤 千鶴				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

「細胞→組織→器官→人体」。これは人体の構成を示した図式である。この関係図を理解しながら、組織の成り立ちの概要を学ぶ。人体の発生・組織の成り立ち、そして歯および歯周組織を構成する各組織の形成過程も含めて学習する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	組織とは何か	細胞と組織
2	組織とその成り立ち	上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織
3		口腔粘膜組織
4	発生	受精と卵割
5		三胚葉の形成
6		顔面と口腔の発生 舌および唾液腺の発生
7	歯と歯周組織の発生	歯胚の形成(蕾状期→帽状期→鐘状期歯胚)
8		歯根の形成
9	歯と歯周組織の組織学	エナメル質・象牙質・歯髄・セメント質の構造
10		歯根膜・歯槽骨の構造
11		歯肉の構造① (遊離歯肉と付着歯肉)
12		歯肉の構造② (外縁上皮と内縁上皮)
13		
14	講義まとめ	組織学編 口腔組織学編
15		

3 授業形態

講 義

4 教科書

①歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版

②歯科衛生学シリーズ歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

The Cate 口腔組織学 A.R.Ten Cate著 平井五郎ほか訳 医歯薬出版

6 評価の方法

定期試験(100%)

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
口腔解剖学		2単位	30時間	1学年	前期
担当講師	神原 範幸				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科医師業務を実践していた歯科医師が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
頭頸部を中心として、器官としての「口腔」とその周辺の各器官の形態や構造・名称を学習していく。口腔解剖学は、歯科医学を学習していく上でも重要な事であり、学習の中で正確な口腔の形態と名称の暗記修得を目標とする。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	口腔		口腔とは・口唇と頬・口腔前庭と固有口腔		
2	骨		頭蓋骨(脳頭蓋と顔面頭蓋)		
前頭骨・頭頂骨・上顎骨・下顎骨・蝶形骨・側頭骨・後頭骨					
頬骨・口蓋骨・舌骨・鼻骨・涙骨・篩骨					
5	筋肉		咀嚼筋(側頭筋・咬筋・内側翼突筋・外側翼突筋)		
舌骨上筋群(顎舌骨筋・顎二腹筋・オトガイ舌骨筋・茎突舌骨筋)					
表情筋(口裂の上方・側方・下方にある筋)					
8	脈管		口腔付近に分布する動脈(総頸動脈・外頸動脈・顎動脈)		
下歯槽動脈・後上歯槽動脈・眼窩下動脈・下行口蓋動脈					
静脈系およびリンパ系					
11	神経		脳神経(12対)の種類		
三叉神経・顔面神経					
舌咽神経・迷走神経・舌下神経					
14	内臓および顎関節		舌および唾液腺		
15			顎関節の構造(下顎頭・下顎窩・関節結節・関節円板)		
3 授業形態					
講義を主に、頭蓋骨模型を用いたグループワークも行い、理解を深めていく。					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版					
5 参考図書・資料					
「口腔解剖学」医歯薬出版 脇田稔 山下靖雄 監修 井出吉信 前田健康 天野修 編 「学生のための解剖・組織・発生学」医歯薬出版 大阪歯科大学教授 諏訪文彦 ほか著 全国歯科衛生士教育協議会 監修 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版 「口腔顎顔面解剖ノート」学健書院 監修 井出吉信 編集 阿部伸一 下田信治 高橋富久 藤村朗					
6 評価の方法					
定期試験60% 小テスト20% 授業態度20%の総合評価とする。					
7 その他					
特になし					

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯牙解剖学		1単位	38時間	1学年	前期
担当講師	梅津 正哉 ・ 辻 任 ・ 櫻庭 啓晃				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している教員及び口腔保健センターにて歯科医師業務を実践している教員と歯科技工所にて歯科技工業務を行っている歯科技工士が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
永久歯および乳歯の形態を修得し、歯列弓を中心とした口腔機能について学ぶ。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	総論		歯の機能・種類・記号・数・歯式など		
2	永久歯・乳歯概論		歯の外観と内観・ミュールライターの3表徴について		
3	FDI表示・歯の外形と内部構造		歯の外観と内観・ミュールライターの3表徴について		
4			上顎中切歯・上顎側切歯・下顎中切歯・下顎側切歯		
5	各論①		上顎犬歯・下顎犬歯・上顎第一小臼歯		
6	永久歯		上顎第二小臼歯・下顎第一小臼歯・下顎第二小臼歯		
7			上顎第一大臼歯・上顎第二大臼歯・上顎第三大臼歯		
8			下顎第一大臼歯・下顎第二大臼歯・下顎第三大臼歯		
9	各論②		永久歯と比較した乳歯の特徴		
10	乳歯		上下顎乳中切歯・乳側切歯・乳犬歯		
11			上下顎第一乳臼歯・第二乳臼歯		
12	歯の配列と咬合および歯列弓		歯牙彎曲・歯の傾斜・歯列弓・上下顎の対向関係		
13	歯牙スケッチ		上顎左側第一大臼歯		
14			下顎左側第一大臼歯		
15					
16	歯牙カービング		歯牙のカービング(彫刻)を通じて歯牙の特徴を学ぶ		
17					
18					
19					
3 授業形態					
講 義					
実 習					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版					
5 参考図書・資料					
「図説新歯牙解剖学」井出吉信 編集					
6 評価の方法					
定期試験90%を基本とし、授業態度10%も含めた総合評価とする。					
7 その他					
特になし					

科目名		単位	時間	学年	開講期
口腔生理学		1単位	16時間	1学年	後期
担当講師	田中 統代子				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

人が生きていくうえで必要なエネルギーを獲得するには、正常な口腔機能が必要です。
また、相手とコミュニケーションをとるのも口腔が重要な役割を担っています。
口腔生理学では、特殊で重要な器官である口腔の多様な機能を学んでいきます。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯と口腔の感覚	歯の感覚、口腔粘膜の感覚
2	味覚と嗅覚	味覚・嗅覚
3	咬合と咀嚼	下顎位、下顎の運動、顎反射、摂食行動、咀嚼能力 吸綴
4		
5		
6	嚥下と嘔吐	嚥下・嘔吐
7	発声	発声機能の概要、声の生成、言語音の形成 歯・口腔の疾病と発音
8	唾液	唾液の分泌機構、唾液の性状・成分と機能 唾液と疾患

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

特になし

6 評価の方法

定期試験 100%

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
病理学		1単位	16時間	1学年	前期
担当講師	竹川 政範				
実務経験	○	経歴	大学病院で教授として教育・臨床に携わっていた教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

病理学は臨床と基礎医学の架け橋であり、臨床側へは病理組織学あるいは免疫学的手法や生化学検査を通して診断にいたる重要な情報を伝える。一方で、基礎医学として分子生物学的手法等を用い、病変の解明にあたる。この病理学の講義は総論であり、病理学で扱う分野、病理学の定義に始まる。細目は以下の授業計画に従うが、病変の成り立ちを理解するため病変や臓器の肉眼的および病理組織像も学ぶことになる。

2 授業計画

回	項目	内容
1	病理学序論と病因論(第1章)	1 病理学とは 2 病因論
	代謝障害と退行性病変(第4章)	1 細胞障害
2	代謝障害と退行性病変(第4章)	2 変性と物質代謝障害 3 萎縮 4 細胞死
3	増殖と修復(第5章)	1 肥大と増生(過形成) 2 化生 3 再生と修復 4 創傷治癒 5 異物処理
4	循環障害(第3章)	1 循環障害とは 2 循環障害の種類
5	炎症(第6章①)	1 炎症
6	炎症・感染症(第6章①)	
	免疫応答異常(第6章②)	2 免疫応答異常
7	遺伝性疾患と奇形(第2章)	1 遺伝 2 遺伝性疾患 3 先天異常
	腫瘍(第7章)	1 腫瘍の発生 2 腫瘍の種類と性質 3 腫瘍の診断
8	病理学まとめ	

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1「病理学・口腔病理学」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

新・歯科衛生士教育マニュアル「病理学」 編集 田中昭男・谷口邦久・長谷川博雅・前田初彦 クインテッセンス出版
カラーで学べる「病理学」 編集 渡辺照男 発行 ヌーヴェルヒロカワ
わかりやすい病理学 改訂第5版 監修 岩田隆子 編集 恒吉正澄・豊島里志・高橋睦生 南江堂
○×問題でマスター病理学 田中純一・柳澤昭夫 編集 医歯薬出版

6 評価の方法

定期試験を主とし、授業毎に行う小テスト、レポート作成、出席回数、授業態度を加味し総合的評価を行う。

7 その他

病理学で記載されている病名や病変を表す言葉、症状が基礎となって日々の臨床の診断と患者への説明がなされているので、十分に理解すること。臨床のなかで不明な疾患や症状も、病理学の教本を参考にすることにより、理解しやすくなるので、講義を終了した後も常に復習するべきであるし、教本を身近に置くことが重要である。

科目名	単位	時間	学年	開講期
口腔病理学	1単位	16時間	1学年	後期
担当講師	竹川 政範			
実務経験	○	経歴	大学病院で教授として教育・臨床に携わっていた教員が該当科目の教育を行う。	

1 授業目標

病理学総論で学んだ知識をもとに、口腔領域の様々な疾患を議論する各論である。日々の歯科臨床で遭遇しうる疾患の成り立ちを理解し、診断や治療方法の一助とする。病変の肉眼像と病理組織像とともに学び、知見を深めるものとする。

2 授業計画

回	項目	内容
1	口腔病理 歯の発育異常(第1章)	1 歯の大きさの異常 2 歯数の異常 3 歯の形の異常 4 歯の構造の異常(形成不全) 5 歯の萌出時期の異常 6 歯の位置の異常 7 咬合の異常
	歯の損傷と着色・付着物(第2章)	1 物理的損傷 2 化学的損傷 3 歯の着色 4 ブラークと歯石
2	う蝕(第3章)	1 う蝕の疫学と病因 2 う蝕の分類 3 う蝕の組織学的変化
3	象牙質・歯髄複合体の病変(第4章)	1 歯髄炎 2 歯髄の退行性変化 3 象牙質の増生 4 象牙質知覚過敏症
4	歯周組織の病態 根尖性歯周(第5章①)	1 根尖部歯周組織の病変
5	歯周組織の病態 辺縁性歯周組織の病変(第5章②、③、④)	2 辺縁部歯周組織の病変 3 エプーリス 4 セメント質増生、セメント(質)粒
6	口腔領域の嚢胞と腫瘍(第7章) 口腔がん(第8章) 顎骨の病変(第9章)	口腔の嚢胞と腫瘍 1 口腔領域の嚢胞 2 口腔領域の腫瘍(歯源性腫瘍) 3 口腔領域の腫瘍(非歯源性腫瘍) 口腔がん 1 口腔潜在的悪性疾患 2 口腔上皮性異形成と上皮内癌 3 扁平上皮癌 顎骨の病変 1 顎骨骨髓炎 2 腫瘍様病変 3 顎関節の病変

回	項目	内容
7	口腔粘膜の病変(第6章) 唾液腺の病変(第10章) 口腔領域の奇形(第11章)	口腔粘膜の病変 1 口腔粘膜の特徴 2 メラニン色素沈着症 3 ヘルペスウイルス感染症 4 手足口病 5 口腔カンジダ症 6 再発性アフタ 7 口腔扁平苔癬 8 天疱瘡 9 類天疱瘡 10 毛舌 11 地図状舌、溝状舌 12 萎縮性舌炎 13 その他の口腔粘膜疾患 唾液腺の病変 1 流行性耳下腺炎 2 シェーグレン症候群 3 唾石症 4 粘膜嚢胞 5 唾液腺腫瘍 口腔領域の奇形 1 顔面と口腔の披裂 2 口腔の發育異常 3 口腔顎顔面に異常を来たす奇形症候群
8	口腔領域の加齢変化(第12章) 病理まとめ	1 歯の硬組織の変化 2 歯髄の変化 3 歯周組織の変化 4 顎骨の変化 5 舌・口腔粘膜の変化 6 唾液腺の変化

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1「病理学・口腔病理学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

新・歯科衛生士教育マニュアル「病理学」編集 田中昭男・谷口邦久・長谷川博雅・前田初彦 クインテッセンス出版
 「新口腔病理学」下田正基・高田隆 編 医歯薬出版
 「口腔病理カラーアトラス」石川梧郎 編 医歯薬出版

6 評価の方法

定期試験を主とし、授業毎に行う小テスト、レポート作成、出席回数、授業態度を加味し総合的評価を行う。

7 その他

日常の歯科臨床で実際に接する疾患を講義で説明するので、十分に理解するように努めること。履修を終了しても常に口腔病理の講義録、教本を身近に置くことが重要である。

科目名		単位	時間	学年	開講期
微生物学		2単位	30時間	1学年	後期
担当講師	橘 峰司				
実務経験	○	経歴	大学病院で微生物検査・院内感染対策に従事した臨床検査技師が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

微生物による感染症の成立と回復、そこに関わる免疫を代表とする生体防御機構、治療と抗菌薬の役割を理解する。また、う蝕、歯周病など口腔感染症の発症機序、免疫の役割、予防について知識を深める。

2 授業計画

回	項目	内容
1	微生物の概要	微生物とは 種類と性質 ヒトとの関連
2		感染の成立・種類
3	微生物学	細菌の形態・構造・病原因子
4		ウイルス・真菌
5		微生物の培養・観察・検査
6		化学療法・滅菌と消毒
7	口腔微生物学	微生物と口腔環境 口腔常在微生物
8		プラーク う蝕 歯周病
9		その他の口腔感染症
10	病原微生物学	グラム陽性球菌～放線菌
11		グラム陰性菌～クラミジア・リッケッチア
12		ウイルスとウイルス感染症・予防・治療
13		歯科に関連する真菌・原虫 プリオンとは
14	免疫学	免疫 自然免疫と獲得免疫
15		アレルギー 自己免疫疾患

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進2「微生物学 第2版」医歯薬出版

5 参考図書・資料

特になし

6 評価の方法

定期試験を主としレポート作成、出席回数、授業態度を加味し総合的評価を行う。

7 その他

新聞・テレビ等の報道機関による感染症関連報道に留意し、原因微生物について興味を持つ。

科目名		単位	時間	学年	開講期
免疫学		1単位	16時間	2学年	前期
担当講師	江端 正祐				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
生体防御における免疫の仕組みを理解するとともに、免疫が我々の健康にどのように関わっているかを理解する。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	免疫学概論		免疫学の歴史		
2	宿主防御機構		非特異的防護機構 特異的防御機構		
3	免疫機構		免疫担当細胞、サイトカイン、免疫機構の発現と調節		
4			免疫の種類、ワクチン		
5	液性免疫		抗原と抗体		
6	細胞性免疫		補体 細胞性免疫の種類、細胞障害性機序		
7	アレルギー		I 型～IV型アレルギーについて		
8	免疫と医療		実際の医療での応用		
3 授業形態					
講 義					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進2「微生物学 第2版」 医歯薬出版 プリント					
5 参考図書・資料					
特になし					
6 評価の方法					
定期試験80%、出席及び授業態度20%で総合的に評価する。					
7 その他					
1年次の微生物学と合わせて感染についての理解がされますので、微生物学についても再度学習しておいてください。					

科目名		単位	時間	学年	開講期		
薬理学(歯科薬理含む)		2単位	36時間	1学年	後期		
担当講師	正時 佐知恵						
実務経験	○	経歴	調剤薬局にて調剤業務を実践している薬剤師が教育を行う。				
1 授業目標							
薬物と生体との相互作用の結果起こる現象を究明する薬理学の基礎的部分を学習する。とくに、薬物作用機序については受容体を中心に学ぶ。							
2 授業計画							
回	項目		内容				
1	総 論		1. 薬物の作用				
2. 薬物動態							
3. 薬物の適用方法の種類と特徴							
4. 薬物の作用に影響を与える要因							
5. 薬物の副作用、有害作用							
6. 医薬品を適用する際の注意							
7. 薬物の取り扱い 8. 薬物と法律・薬物と医薬品							
8	各 論		1. ビタミンとホルモン				
2. 末梢神経系に作用する薬物 3. 中枢神経系に作用する薬物 4. 循環器系に作用する薬物							
5. 腎臓に作用する薬物 6. 呼吸器系に作用する薬物 7. 消化器系に作用する薬物							
8. 血液に作用する薬物 9. 免疫と薬 10. 悪性腫瘍と薬							
11. 代謝性疾患治療薬 12. 炎症と薬							
13. 痛みと薬物 14. 局所麻酔薬							
15. 抗感染症薬							
16. 消毒に使用する薬 17. う蝕予防薬 18. 歯内療法薬							
19. 歯周疾患治療薬 20. 顎・口腔粘膜疾患と薬物 21. 和漢薬							
17					調剤実習を通じて薬品の取り扱いを学ぶ		
18							
3 授業形態							
講義、調剤実習							
4 教科書							
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3「薬理学」 医歯薬出版							
5 参考図書・資料							
特になし							
6 評価の方法							
定期試験 100%							
7 その他							
特になし							

科目名		単位	時間	学年	開講期
保健生態学		6単位	90時間	1学年	前・後期
担当講師	山田 均				
実務経験	○	経歴	歯科診療所で歯科医師業務を行っていた歯科医師が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

公衆衛生・環境衛生の概念と基本的な内容を理解し、疾病を予防したり健康を増進したりすることに役立てる。また、口腔の健康を保持・増進し、歯科疾患を予防するための基本的知識を習得し、その中における歯科衛生士の役割を理解するとともに、公衆歯科衛生活動における役割も理解する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	保健生態学概論	公衆衛生学・衛生学・口腔衛生学との関連を理解
2	健康の概念	健康に対する概念の変化の理解
3	予防の概念	予防に対する概念の幅広い理解
4	疫学	疫学の基本の理解
5	疫学の研究方法	基礎的な研究方法の理解
6	臨床疫学	EBM等の理解
7	人口の動向	日本の人口の変化を理解
8	人口動態統計と生命表	統計調査を理解
9	環境と健康	環境と健康の歴史を理解
10	地球環境と健康	環境と健康の歴史を理解
11	公害と産業廃棄物	環境と健康の歴史を理解
12	感染症の成立	感染症を理解
13	感染症の予防と動向	感染症対策を理解
14	食品保健	食品と健康の関連を理解
15	栄養と健康	栄養と健康の関連を理解
16 17 18 19	歯・口腔の予防と健康 総論	歯・口腔の健康と予防 歯・口腔の健康 歯・口腔の付着物・沈着物
20 21	歯科疾患の疫学	う蝕の疫学、歯周疾患の疫学、その他の疫学
22 23	口腔清掃	口腔清掃の意義、口腔清掃法、人工的清掃法の分類と用具、不適切な口腔清掃による為害作用、歯磨剤と洗口剤
24 25 26	う蝕の予防	う蝕発生のメカニズム、う蝕の発生要因、う蝕活動性、う蝕の予防法

27 30	フッ化物によるう蝕予防	わが国のフッ化物応用、フッ化物の一般性状、人間生態系におけるフッ化物、フッ化物摂取量とその基準、フッ素の代謝、フッ化物の毒性、フッ化物応用によるう蝕予防法、フッ化物のう蝕予防メカニズム、ライフステージに応じたフッ化物応用
31 32	歯周疾患の予防	歯周疾患の症状と分類、歯周疾患の発症機序、歯周疾患の全身に与える影響、歯周疾患の予防手段と処置
33	その他の疾患・異常の予防	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭症、口腔乾燥症
34 35	地域保健・公衆衛生	地域社会と地域保健の概念、地域保健の組織、地域保健の新たな概念、地域保健活動の進め方、健康づくり対策と地域歯科保健
36 37	母子保健	母子保健の意義及び概要、母子保健、母子歯科保健、母子保健の現状と今後
38 39	学校保健	学校保健の意義及び概要、学校保健の活動と組織、学校歯科保健
40	成人保健	成人保健の意義、成人保健対策、成人期の歯科保健
41	産業保健	産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理、産業保健活動
42	老人保健	老人保健の意義、行政組織と関連法規
43	精神保健	精神保健とは、精神衛生から精神保健へ、わが国の精神保健のあゆみ、精神保健・医療・福祉、精神障害者の歯科保健
44	災害時の歯科保健	大規模災害時の保健医療対策 被災地での歯科保健活動、災害時の個人識別
45	国際保健	開発途上国における健康問題、国際化に伴うわが国の保健医療問題、国際協力、口腔保健の状況、口腔保健戦略と目標

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

6 評価の方法

定期試験 100%

7 その他

歯科衛生士の業務において、その基礎となる科目なので、理論と知識を確実に習得することが必要になります。

科目名		単位	時間	学年	開講期
衛生統計学		1単位	8時間	2学年	後期
担当講師	佐藤 遊洋				
実務経験		経歴	旭川医科大学で当該科目を担当している教員が教育を行う。		

1 授業目標

統計学の基本的な考え方と知識、統計学と医学の関わりを理解する。統計学を用いて歯科医療における研究デザインを紹介しながら、より実践的な形での理解・修得をめざす。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯科疾患指標	疫学で使用される歯科疾患指標を理解する
2	その他の健康指標	歯科疾患以外の健康指標を理解する
3	歯科関連統計調査	歯科に関連する統計情報を理解する
4	統計情報と個人情報保護	統計情報の扱い方と保護の仕方を理解する
5	統計学入門①	統計学の初歩的知識を理解する
6	統計学入門②	統計学の初歩的知識を理解する
7	EBMと疫学①	EBMの概念を学び、疫学の考え方を理解する
8	EBMと疫学②	EBMの概念を学び、疫学の考え方を理解する

3 授業形態

講義

4 教科書

最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ3 「保健情報統計学」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

講義で紹介する。

6 評価の方法

定期試験100%にて評価とする。
定期テストは主に国家試験形式で行う。

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
衛生行政・社会福祉学		2単位	30時間	3学年	前期
担当講師	山田 均				
実務経験	○	経歴	歯科診療所で歯科医師業務を実践していた歯科医師が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

歯科衛生士として業務を遂行するために必要な法的知識や医療関連の法律について学ぶ。また、社会保障制度について学び、社会のセーフティネットのあり方や医療保険の詳細についても学ぶ。

2 授業計画

回	項目	内容
1	法とは	法の概念、法の基本
2	医療法	医療法の内容について
3	歯科医師法	歯科医師法の内容について
4 ・ 5	歯科衛生士法	歯科衛生士法の成り立ち、歯科衛生士の定義と業務、免許、欠格事由、名称独占、業務独占
6	歯科技工士法	歯科技工士法の内容について
7	医療関係職種	保健師助産師看護師法、医師法、薬剤師法他
8	その他の関係法規	地域保健法、健康増進法、母子保健法、薬事に関する法規、感染症法他
9	社会保障制度の概要	社会保障の定義、内容
10 ・ 11	医療保険	医療保険の種類、健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、審査支払機関
12 ・ 13	介護保険	要介護認定、保険給付、介護予防サービス、地域包括支援センター
14	社会福祉	生活保護、障害者自立支援法、児童福祉法、老人福祉法
15	医療の動向	医療状況の動向

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2
「保健・医療・福祉の制度」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

特になし

6 評価の方法

定期試験 100%

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科衛生士概論		2単位	30時間	1学年	前期
担当講師	岩田谷 隆				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
歯科衛生士の使命は歯科疾患の予防および口腔衛生の向上を図ることを目的としている。歯科衛生士教育として歯科医療の概念、歯科医療における歯科衛生士の位置づけとその役割を理解させ、合わせて一社会人としての倫理観、人と人とのコミュニケーションを大切にする事などについて修得する。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	オリエンテーション		歯科衛生士概論で学ぶこと 歯科衛生士とは グループワーク		
2	歯科衛生士の役割		専門職としての歯科衛生士とは 歯科衛生士の役割		
3	歯科衛生士とは①		歯科衛生学と歯科衛生の考え方(科学的思考)		
4	歯科衛生士とは②		歯科衛生と健康の考え方、健康へのかかわり		
5	歯科衛生の歴史		歯科衛生の歴史と歯科衛生士の誕生		
6	歯科衛生士法と歯科衛生士業務①		歯科衛生士業務と歯科衛生士法		
7	歯科衛生士法と歯科衛生士業務②		歯科衛生士の義務と歯科衛生士法		
8	歯科衛生活動のための理論①		予防と健康のモデル		
9	歯科衛生活動のための理論②		保健行動の理念とヒューマンニーズ		
10	歯科衛生士業務①		歯科衛生過程について		
11	歯科衛生士業務②		医療安全管理		
12	歯科衛生士業務③		感染予防と対策		
13	歯科衛生士と医療倫理①		倫理の必要性 医の倫理と患者の権利 歯科衛生士と倫理		
14	歯科衛生士と医療倫理②		自己決定権の尊重 インフォームドコンセント インフォームドチョイス セカンドオピニオン		
15	歯科衛生士の活動と組織 海外における歯科衛生士		歯科衛生士の動向 歯科衛生活動の場と組織 海外における歯科衛生士の現状		
3 授業形態					
講義、グループワーク					
4 教科書					
使用しない					
5 参考図書・資料					
新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」 第2版 医歯薬出版					
最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理」 医歯薬出版					
最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」 医歯薬出版					
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2「歯科衛生士と法律・制度」 医歯薬出版					
6 評価の方法					
定期試験60% 小テスト30% 授業態度10%の総合評価とする。					
7 その他					
特になし					

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科臨床概論		1単位	20時間	1学年	前期
担当講師	北 進一				
実務経験	○	経歴	大学病院で教授として教育・臨床に携わり、歯科医院にて歯科医師業務を実践していた教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

歯科医療の概要と歯科診療の基礎を教授する。これにより、歯科医療の中で歯科衛生士の担う役割を理解する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯科医療	1. 医療と診療の意味 2. 歯科診療における医療従事者 3. 歯科衛生士の責務、歯科医師とのチーム医療
2	歯科患者	1. 医の倫理(患者の自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務) 2. 患者への対応、患者の真理 3. 小児、高齢者、有病者、障害者、在宅医療への対応
3		
4	歯科疾患の概要と治療の流れ	1. 矯正歯科の治療 2. 小児歯科の治療 3. 歯科保存の治療 4. 歯周疾患の治療 5. 欠損・補綴歯科の治療 6. 口腔外科疾患の治療
5		
6		
7		
8	感染症対策	1. 感染症とは 2. 院内感染 3. 院内感染の予防対策(スタンダード・プリコーション) 4. 感染症の治療 以上のことから、病原体(細菌・ウイルス・真菌)からわが身を守り院内感染を防止するのは”知識“であることを理解する。感染源の代表は唾液と血液であること。ウイルス性肝炎、HIVなどの血液感染症が治療器具の針刺しや切創事故、あるいは微小な傷口から経皮的暴露された際に起こることを理解し、その治療法の現状について理解する。 滅菌と消毒の用語の意味とその概念を理解し、同時に安全と経済効率をも考慮すること。使用後の治療器具は水洗することの重要性を学ぶ。“消毒の3要素”によって効果に大きな差が生じることを理解し、それぞれの利点・欠点について学ぶ。医療廃棄物の処理について、血液がついたもの、鋭利なものなど、その種類について考慮し、非感染性および感染性廃棄物がそれぞれの容器あるいはビニール袋で梱包するのかを学ぶ。
9		
10		

3 授業形態

講義、グループワーク

4 教科書

新・歯科衛生士教育マニュアル「歯科臨床の基礎と概論 第2版」クインテッセンス出版

5 参考図書・資料

プリント・スライド使用

佐藤田鶴子 著「消毒の最前線」デンタルダイヤモンド社1994年

6 評価の方法

定期試験100%による評価とする。

7 その他

歯科医学の基礎であり、臨床上でも重要な項目です。内容をよく理解し復習しながら学んで下さい。

科目名		単位	時間	学年	開講期
保存修復学		1単位	20時間	1学年	後期
担当講師	山本 俊太郎 ・ 宮田 崇史				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

保存修復とは歯牙の硬組織欠損や形態異常に対し、修復を行い歯牙の形態と機能を回復させる事です。種々の修復材料の特性・取り扱いを学び、その中で歯科衛生士の役割を理解する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	1章 保存修復学定義対象となる疾患 う蝕	口腔内診査 硬組織疾患 好発部位・拡がり方・分類
2	窩洞	窩洞の成り立ち 外形・保持形態 抵抗形態・便宜形態 MI・ミニマルインターベンションとは
3	窩洞	ブラックの窩洞分類 歯間分離法・歯肉圧排法・ラバーダム防湿法・隔壁法
4	歯の切削・窩洞形成	切削器具・切削方法・歯髄の保護 コンポジットレジン修復 構造と種類
5	2章 直接法修復	修復の特徴と適応症 接着システム、補修修復
6	2章 直接法修復	光重合型コンポジットレジン修復の特徴 手順 セメント修復 ガラスイオノマーセメント
7	2章 直接法修復	構造と修復方法・手順・特徴 その他の歯科用セメント 歯の漂白
8	3章 間接法修復	鑄造修復 インレーおよびアンレー修復 特徴と適応症 鑄造修復の手順・技工作業
9	セラミックインレー ラミネートベニア	ラミネートベニア修復の特徴と適応症、 セラミックインレー、レジンインレー修復の特徴と適応症
10	保存修復 保存修復における歯科衛生士の役割	保存修復とは メインテナンス 指導

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

「保存修復学21」永末書店
「保存修復学」寺中、平井、千田、寺下 編 医歯薬出版

6 評価の方法

定期試験100%を基本とした総合評価とする。

7 その他

臨床への入門科目です。授業内容の予習、復習をして授業に臨み、総合的な理解をしてほしい。

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯内療法学		1単位	20時間	1学年	後期
担当講師	高橋 千穂				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

歯内療法概念とその診断、治療、予防法の基本知識・技術を習得し、歯科衛生士としての臨床に必要な項目を学ぶ。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯内療法総論 歯内療法学の概論 歯科衛生士と歯内療法	患者の症状・処置内容に対する理解 治療後の患者の管理 象牙質・歯髄複合体 AδとC線維
2	歯髄疾患 歯髄疾患の原因 歯髄充血 急性単純性(漿液性)歯髄炎 急性化膿性歯髄炎 慢性潰瘍性歯髄炎 慢性増殖性歯髄炎 歯髄壊死・歯髄壊疽 歯髄変性 突発性歯髄炎 上行性歯髄炎	臨床的特徴(自覚症状・他覚症状) 病理組織学的特徴
3	根尖性歯周疾患 根尖性歯周炎の原因 急性単純性(漿液性)根尖性歯周炎 急性化膿性根尖性歯周炎 慢性単純性(漿液性)根尖性歯周炎	臨床的特徴(自覚症状・他覚症状) 病理組織学的特徴
4	歯髄の保存療法	目的、適応症、処置法、薬剤
5	歯髄の除去療法(1) 生活歯髄切断法	目的、適応症、処置法、薬剤
6	歯髄の除去療法(2) 麻酔抜髄法	目的、適応症、処置法、薬剤
7	根管治療(1) 髄室開拓 根管長の測定法 根管の拡大・清掃 根管の消毒	抜髄根管と感染根管の違いについて 感染根管治療とは 根管治療の基本理念 目的、術式、器具、薬剤、種類
8	根管治療(2) 根管充填	根管充填の時期 目的、術式、器具 根管充填材の所要性質
9	外科的歯内療法 切開・排膿法 根尖搔把法 根尖切除法 歯根切断法(ルートリセクション) 歯根分離法(ルートセパレーション) ヘミセクション	それぞれの適応症と術式について
10	歯の外傷及び歯内療法における偶発症	歯の外傷の種類(破折と脱臼) 脱落歯への処置と保存法 器具の破折 根管の穿孔 皮下気腫 器具の誤飲・吸引 原因の対策法

3 授業形態

講義(必要に応じて、講義資料を配布する)

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

新・歯科衛生士教育マニュアル 歯内療法 編集 笠原悦男・林宏行・吉田隆一 クインテッセンス出版
須田英明編集「エンドドンティクス21」永末書店

6 評価の方法

定期試験80% 授業内小テスト20%を加えた総合評価とする。

7 その他

お互いに関連する他の科目(解剖学・生理学・病理学・保存修復学・歯科材料学など)における該当科目について相互の関係を理解すること。

歯内療法処置では、歯科医師と歯科衛生士の緊密な連携が不可欠であるから、歯科診療補助実習や臨床見学実習において、治療や術式や器具・材料等を理解していること。

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯周治療学		2単位	30時間	2学年	前期
担当講師	渋川 義宏・早勢 雅彦・伊藤 睦伸・野口 祐輔・沓澤 政幸				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員と歯科医師専任教員が当該科目の教育を行う。		

1 授業目標

歯を支える歯周組織の病気である歯周疾患(歯周病)はう蝕とともに口腔領域の2大疾患といわれているが、う蝕は減少傾向にあるものの、歯周疾患は増加傾向をたどっており歯を失う原因としてきわめて重要である。歯科衛生士にとって歯周疾患の予防と治療は最も重要な仕事である。臨床に即した基礎知識を復習しながら治療体系を理解していく。また、歯周治療の基本の技術、知識を身に付け、自分で考える力を付けていく。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯周組織の基礎知識(1) 歯周治療とは	歯周疾患の現状と治療 歯科衛生業務と歯周治療
2	歯周組織の基礎知識(2) 正常な歯周組織の構造と機能	歯周組織 歯周組織と咬合 審美性の維持 歯周組織の加齢変化
3	歯周組織の基礎知識(3) 歯周組織の分類と原因	歯周病の分類 歯周病の原因 ペリオドンタルメディシン(歯周医学) インプラント周囲疾患
4	歯周治療の実際 歯周治療の進め方	歯周治療の予防と歯周治療の基本 歯周治療の進め方
5	歯周治療の実際 歯周病の検査(1)	主訴を中心とした一般検査 歯周病検査
6	歯周治療の実際 歯周病の検査(2)	咬合の診査 画像診断 その他の診査
7	歯周治療の実際 歯周基本治療(1)	歯周基本治療の目的と効果
8	歯周治療の実際 歯周基本治療(2)	歯周基本治療の内容と実際(1)
9	歯周治療の実際 歯周基本治療(3)	歯周基本治療の内容と実際(2)
10	歯周治療の実際 歯周外科治療(1)	歯周外科治療の目的と分類 歯周外科治療後の治療形態
11	歯周治療の実際 歯周外科治療(2)	歯周外科に用いる器材 種々の歯周外科治療
12	歯周治療の実際 歯周治療としての口腔機能回復治療 メンテナンス	歯周治療における口腔機能回復治療とは 咬合治療 歯周矯正治療 歯の固定法 歯科用インプラントによる治療 メインテナンスの重要性とその意義 メンテナンス、SPTの実際 メインテナンス、SPTの内容
13	歯周治療における歯科衛生士の業務 歯周治療における歯科衛生士の役割(1)	歯周治療の進め方 歯周病検査・診断時の補助 リスクファクターなどに対する指導
14	歯周治療における歯科衛生士の業務 歯周治療における歯科衛生士の役割(2)	スケーリング・ルートプレーニング 歯周外科治療
15	歯周治療における歯科衛生士の業務 歯周治療における歯科衛生士の役割(3)	口腔機能回復治療 メインテナンス、SPT 診療室と器具・器材の管理

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「歯周病学」医歯薬出版
新・歯科衛生士教育マニュアル 歯周病学 クインテッセンス出版

5 参考図書・資料

新歯科衛生士教本 歯周治療学 医歯薬出版株式会社
新版 最新歯周病学 加藤 熙 著 医歯薬出版株式会社
歯周治療の疑問に答えます Q&A47 監修 渋川義宏 永山元彦 医歯薬出版株式会社

6 評価の方法

中間試験50% 定期試験50%による評価とする。

7 その他

履修上の注意
症例を実際に検討しながら授業をすすめるので、予習復習をしておくこと。
解らないことがあれば、質問して理解を深めること。

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科補綴学		2単位	30時間	2学年	前期
担当講師	三浦 一仁 ・ 二宮 隆明				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

う蝕や歯周病による歯の崩壊や喪失により失われた形態と機能を、クラウンやブリッジでいかに回復するかを理解し、補綴治療全体の流れと技工操作との関連を理解する。また修復された口腔の健康を維持するための患者に対する指導について学ぶ。さらに無歯顎補綴及び欠損補綴に関しては、その治療的あるいは予防的な意義と有床義歯及びインプラントの在り方を理解し、診査、診断、製作、装着および装着後の監視、処置などの臨床面における診療補助、患者指導を行うための学理を学ぶ。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯科補綴治療の基礎 歯科補綴の概要	補綴とは 補綴歯科治療の意義と目的 歯の欠損に伴う生理的变化 歯科補綴治療における歯科衛生士の役割
2	補綴歯科治療の基礎知識	歯列と咬合 補綴学的基準平面
3		口腔の機能 顎関節の構造・機能と病理
4	歯科補綴治療の方法と補綴装置	クラウン・ブリッジ
5	歯科補綴治療の方法と補綴装置	全部床義歯・部分床義歯
6	歯科補綴治療の実際と歯科衛生士の役割 補綴歯科治療における検査	医療面接と診療 口腔内検査・画像検査・咬合と顎口腔機能検査
7	クラウン・ブリッジ治療①	クラウン・ブリッジ治療の概要 クラウン・ブリッジ治療の流れ
8	有床義歯治療①	全部床義歯治療の概要・流れ
9		部分床義歯治療の概要・流れ
10	インプラント治療①	インプラント治療の概要・流れ
11	特殊な口腔装置を用いる治療	(顎顔面補綴治療・構音・嚥下機能の補綴治療等)
12	クラウン・ブリッジ治療②	クラウン・ブリッジ治療の診療補助 クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブル
13	有床義歯治療②	有床義歯治療の診療補助 有床義歯治療に伴うトラブル
14	インプラント治療②	インプラント治療の診療補助 インプラント治療に伴うトラブル
15	補綴歯科治療における器材の管理	器具・器材別滅菌、消毒、洗浄、保管 歯科技工士との連携

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学 第2版」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

新・歯科衛生士教育マニュアル「歯科補綴学」 クインテッセンス出版

6 評価の方法

定期試験100%による総合評価

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科矯正学		2単位	30時間	2学年	前期
担当講師	長谷川 慎一郎・岡田 昭人・池田 健二・上地 潤・原田 雅文・廣澤 知之				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて矯正歯科業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

矯正治療の目的や不正咬合の障害を理解させ、頭部顔面領域並びに歯列の成長発育についての知識を教授する。これを通じて矯正治療の器具やその管理並びに歯科衛生士の役割を伝える。

2 授業計画

回	項目	内容
1	総論	歯科矯正学とは
2	矯正歯科治療の概要	矯正歯科治療の目的と必要性
3	成長・発育	身体、頭部および顎顔面・歯列咬合の成長・発育
4	咬合(1)	正常咬合と不正咬合
5	咬合(2)	不正咬合の原因、予防
6	矯正歯科診断	診断に必要な検査、症例分析
7	矯正歯科と力	歯の移動と組織反応
8	矯正装置(1)	矯正装置の種類
9	矯正装置(2)	矯正装置の種類2
10	保定	保定装置、再発とその防止策
11	矯正治療の実際(1)	上下顎の前後的、垂直的不調和、成人矯正
12	矯正治療の実際(2)	口腔顎顔面の形成異常と変形、埋伏と歯数の異常 トラブルへの対応
13	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割(1)	診断にかかわる業務、矯正歯科用器具・材料の取り扱い
14	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割(2)	装置装着時の補助と指導 口腔保健管理
15	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割(3)	口腔筋機能療法 器材、資料、文章の管理

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学 第2版」医歯薬出版

5 参考図書・資料

特になし

6 評価の方法

定期試験100%による評価とする。

7 その他

発育期、成人期を通じて長期にわたる歯科臨床であるため、成長・発育に対する理解と器具等の管理、ならびに矯正患者特有の歯口清掃法の指導について理解をするようにしてほしい。

科目名		単位	時間	学年	開講期
口腔外科学		2単位	30時間	2学年	前期
担当講師	鳥谷部 純行 ・ 藤堂 雅成 ・ 本橋 征之 ・ 岡田 益彦				
実務経験	○	経歴	病院及び歯科医院にて歯科口腔外科業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
口腔外科で扱われる疾患の病態、治療法などについて理解する。					
口腔外科疾患における診療補助および手術機械等の滅菌・消毒について習熟する。					
がん患者、要介護高齢者等の口腔ケアの必要性について理解する。					
2 授業計画					
回	項目	内容			
1	口腔外科の概要	顎・口腔領域の疾患とその特徴 口腔病変と全身疾患 口腔外科患者と歯科衛生士の関わり			
2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常	歯の発育異常 口腔軟組織の先天異常と発育異常 口唇裂・口蓋裂・顎の先天異常と発育異常			
3	顎・口腔領域の損傷および機能障害	軟組織・歯および歯槽の外傷 顎骨骨折			
4	口腔粘膜の病変	水疱、紅斑、潰瘍、白斑など口腔粘膜疾患の主症状とその特徴 全身疾患および皮膚疾患と口腔粘膜病変の関係			
5	顎・口腔領域の化膿性炎症性疾患	歯周組織の炎症 顎骨の炎症 顎骨周囲組織の炎症			
6	顎・口腔領域の嚢胞性疾患	顎骨に発生する嚢胞 軟組織に発生する嚢胞			
7	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	腫瘍の定義・分類 歯源性腫瘍と非歯源性腫瘍			
8	唾液腺疾患	唾液腺の解剖と役割 炎症性唾液腺疾患と唾石症 唾液腺腫瘍			
9	口腔領域の神経疾患	顎・口腔領域の知覚神経・運動神経 神経痛、神経麻痺、神経痙攣			
10	口腔外科診療の実際Ⅰ	口腔外科治療の流れ 口腔外科疾患の診察 清潔と不潔			
11	口腔外科診療の実際Ⅱ	創傷の処置 口腔外科小手術（抜歯術）			
12	口腔外科診療の実際Ⅲ	口腔外科小手術（消炎手術、嚢胞摘出術、歯根端切除術など）			
13	口腔外科診療の実際Ⅳ 歯科治療と歯科麻酔	止血処置、縫合処置 歯科麻酔の役割 全身状態の評価と患者管理			
14	歯科治療と歯科麻酔	局所麻酔 精神鎮静法 全身麻酔 救急蘇生法			
15	HIV/AIDS 周術期等口腔機能管理 薬剤関連顎骨壊死	標準予防策と感染経路別予防策 周術期専門的口腔衛生処置 医科歯科連携における歯科衛生士の関わり			
3 授業形態					
講義					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」医歯薬出版					
5 参考図書・資料					
DCLSコースガイドブック デンタル・クライシスの初期対応 日本口腔外科学会DCLS開発委員会 監修 へるす出版					
6 評価の方法					
中間試験40% 定期試験50% 授業内小テスト10%による総合評価による。					
7 その他					
歯科衛生士は、口腔の疾患および所見のみにとらわれず、全身状態を観察し、患者対応できる資質と素養を身につけてもらう。					

科目名		単位	時間	学年	開講期
小児歯科学		2単位	30時間	2学年	前期
担当講師		上津 誠司 ・ 野呂 大輔			
実務経験	○	経歴	歯科医院にて小児歯科業務を実践している教員と障がい者サポートセンターで障がい者支援を実践している教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
胎児期から成人にいたるコンテキストを理解し、良好な口腔環境の維持増進、疾患や異常の予防、健全な顎顔面と口腔の形態と機能を育成するための理論と方法を習得することを目的とする。					
2 授業計画					
	回	項目	内容		
小児 歯 科 診 療 の 基 礎 知 識	1	小児歯科学概論 心身の発達	小児歯科学とは 発達の概念と分類 発育状態の評価 器官の発育 精神発達 機能の発達		
	2	小児の生理的特徴	バイタルサインと生理的年齢 薬剤処方と薬物療法		
	3	顔面頭蓋の発達	精神発達脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化 脳頭蓋の発育の特徴 顔面頭蓋の発育の特徴 発育の評価法		
	4	歯の発育とその異常	乳歯・幼若永久歯の特徴 歯の形成 歯の発育時期と形成異常歯の萌出 歯の萌出 歯の萌出異常		
	5	歯列・咬合の発育と異常	歯列・咬合の発育 歯列・咬合の異常		
	6	小児の歯科疾患	小児にみられるう蝕 小児にみられる歯周疾患 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患		
	7	小児虐待	小児虐待とは 虐待の種類 虐待の頻度と虐待者 虐待の起こる背景 身体的虐待による頭部・顔面・口腔・歯の所見 歯科との関わりーネグレクトとう蝕 歯科衛生士からのアプローチ		
小児 歯 科 診 療 の 実 際 に お け る 歯 科 衛 生 士 の 役 割	8	小児期の特徴と歯科的問題点	乳・幼児期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患 学齢期小児の特徴、留意点と特徴的疾患 思春期小児の特徴、留意点と特徴的疾患		
	9	小児歯科における患者との対応法	患児・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係 歯科診療室における小児の態度と行動 年齢別にみた小児の行動と対処法 歯科治療時の対応法		
	10	小児歯科における診療体系	小児歯科診療とその特徴 小児歯科治療における原則 診察・検査・診断 小児の歯の健康教室 小児歯科における麻酔法 小児の歯冠修復 小児の歯内療法 小児の外科処置 外傷の処置 咬合誘導 フッ化ジアンミン銀塗布 リコール(定期健診)		

	回	項目	内容
小児 歯科 診療 の 実 際 に お け る 歯 科 衛 生 士 の 役 割	11	障害児の歯科治療	障害児における歯科的対応 主な障害とその全身的・歯科的特徴 障害児への対応 小児の摂食・嚥下障害の特徴
	12	う蝕予防	プラークコントロール フッ化物の応用 小窩裂溝填塞法(フィッシャーシーラント) 食生活指導 診療補助と歯科衛生士
	13		保存修復 歯内療法 外科的処置 咬合誘導
	14	小児の口腔保健管理 歯科診療室と器材の管理	目的 方法 歯科診療室の管理 器材の管理
	15	小児歯科学のまとめ	

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

特になし

6 評価の方法

単元テスト30% 定期試験70%による総合評価とする。

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
高齢者歯科学		1単位	20時間	2学年	後期
担当講師	中舘 敬 ・ 梅津 正哉				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
高齢者の精神的、身体的状態を学び社会的背景を知り、歯科診療に於いて適切な対応、診療補助、口腔衛生管理について学び修復する。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	高齢者歯科の現状		高齢者の定義・高齢者の特性		
2	高齢者の健康と疾病		高齢者の健康と生活		
3	高齢者の口腔		高齢者の口腔領域の特性		
4	高齢者と薬剤		口腔領域の疾患 薬剤に関する諸問題		
5	まとめ				
6	高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割		高齢者に多くみられる疾患、歯科診療・保健指導上の注意点		
7	高齢者の歯科診療、接し方、介護技術 歯科診療の実際と歯科診療補助		高血圧症・心臓病・糖尿病・うつ病等		
8	高齢者の口腔保健管理		歯科衛生士による口腔保健管理		
9	高齢者への歯科保健指導		セルフケア		
10	歯科保健指導の実際と留意点				
3 授業形態					
講 義					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 医歯薬出版					
5 参考図書・資料					
「高齢者歯科ガイドブック」 医歯薬出版					
「歯科衛生士の為の高齢者歯科学」 医歯薬出版					
6 評価の方法					
定期試験100%にて評価とする。					
7 その他					
摂食・嚥下に関する詳細は「摂食・嚥下訓練法」の科目で修得する。					

科目名		単位	時間	学年	開講期
心身障がい者歯科学		1単位	16時間	2学年	前期
担当講師	水野 かほ				
実務経験	○	経歴	病院の歯科口腔外科にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

障がい者歯科の臨床では歯科衛生士の役割は大きく、かつ重要であり歯科医師とともに障がい者への歯科医療に対する参加が期待される。

本授業では、障がい者歯科の総論と各論について教授する。これにより、障がい者歯科医療における歯科衛生士の役割や業務について理解させる。

2 授業計画

回	項目	内容
1	障がい者の現状と歯科診療	障害の概念、分類 障がい者歯科の特質、行動調整
2	障害の種類と歯科的特徴	障害の種類(種類に応じた治療法)
3	障がい者と薬剤	障がい者に多い服用薬 障がい者の服用薬と歯科保健の問題 障がい者に薬剤を使用する時の注意
4	障がい者歯科における歯科衛生士の役割	障がい者に対する基本的対応 業務記録とその管理、活用 摂食・嚥下障害への対応
5	障がい者の歯科診療と歯科診療補助	診療の基本的な流れと対応 行動調整における歯科診療補助の実際 歯科治療時の工夫と留意点 障害別の対応 全身状態への配慮 感染予防
6	障がい者の口腔保健管理	歯科衛生士による障がい者の口腔保健管理 日常生活における障がい者の口腔保健
7	障がい者の歯科保健指導の留意点と指導の実際	障がい者に対する歯科指導の留意点と指導の実際 機能面への歯科保健指導の留意点と指導 歯科保健指導の連携
8	障がい者歯科医療・保健施設における歯科衛生士の役割	かかりつけ歯科医と施設との連携に歯科衛生士が どう関わるか 地域の保健・医療・福祉施設との連携 巡回歯科診療

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

特になし

6 評価の方法

定期試験および授業内確認テストによる総合評価
受講態度、出席状況も加味する

7 その他

口腔保健センター等、臨床実習(見学)が授業のあとであるので、授業の復習を行い、臨床実習へ結びつけてほしい。

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科放射線学		2単位	30時間	2学年	前期
担当講師	三浦 公義				
実務経験	○	経歴	実務経験のある放射線技師が当該科目の教育を行う。		

1 授業目標

歯科診療に於いてエックス線撮影検査は必要不可欠なものであり、エックス線撮影に於いて歯科衛生士は補助業務に高度の知識および技能が求められる。歯科臨床に求められる知識と技能を身につける事を目的とする。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯科医療と放射線	歯科におけるエックス線写真と画像診断 放射線とその性質 放射線の人体への影響と防護
2	エックス線画像の形成	エックス線と画像の形成 エックス線フィルムと増感紙 デジタル画像系
3	歯科におけるエックス線検査	口内法エックス線撮影 パノラマエックス線撮影 頭部エックス線規格撮影 その他の画像検査法
4	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割	口内法エックス線撮影の準備 フィルムとヘッドの位置づけ 配慮が必要な患者のエックス線撮影 感染予防 口内法エックス線写真のみかた
5	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割	パノラマエックス線撮影の準備 患者の誘導と位置づけ パノラマエックス線写真のみかた
6	写真処理と画像保管の実際 放射線治療と口腔管理	写真処理 写真処理における品質管理 エックス線写真の整理・観察・保管 放射線治療とその副作用
7	エックス線実習オリエンテーション	エックス線撮影実習について (撮影時の注意事項等)
8	上顎前歯部	患者の誘導 フィルムの位置づけ 現像(インスタント現像)
9	上顎臼歯部	〃
10	上顎犬歯部	患者の誘導 フィルムの位置づけ 現像(自動現像)
11	下顎臼歯部	〃
12	下顎犬歯部	〃
13	パノラマ撮影①	〃
14	パノラマ撮影②	〃
15	頭部規格撮影法・咬合法・咬翼法	〃

3 授業形態

講義・実習

4 教科書

歯科衛生士テキスト「わかりやすい歯科放射線学 第2版」学健書院

5 参考図書・資料

全国歯科衛生士教育協議会 監修 最新歯科衛生士教本「歯科放射線」
ORAL RADIOLOGY 著者 東与光・青山亘・鈴木信一郎・鹿島勇 日本医事新報社

6 評価の方法

定期試験70% 実習点20% 授業態度10%による総合評価とする。

7 その他

臨床の場で役立つように歯科放射線学の知識を身につける。

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯周病予防処置		3単位	102時間	1学年	前・後期
担当講師	鬼頭 優子 ・ 城 麻依子				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務の実践をしていた歯科衛生士専任教員が教育を行う。		

1 授業目標

【 前期 】

歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔の保健管理を目的とした歯周病予防処置を行うための基礎知識を習得する。

【 後期 】

患者の安全に配慮したマネキンスケーリング操作を行うために必要な器材の特徴と操作方法を理解し、指示された部位への確実なスケーリングを習得する。

到達目標

【 前期 】

1 口腔疾患を予防する歯科衛生士の役割を理解する。

2 健康な歯・歯周組織と口腔の機能を知り、歯周病の原因と進行及びその予防方法を知る。

3 口腔内の付着物、沈着物を除去するために必要な器材と、手用スクレーラーの特徴を知る。

4 執筆状変法把持法によるスクレーラーの把持と固定の必要性を知る。

5 シックルスクレーラーの特徴を知り、顎模型を使用した基本的運動操作ができる。

【 後期 】

1 スケーリング操作に必要なマネキンの操作とポジショニングが実施できる。

2 キュレットスクレーラーの特徴を知り、顎模型を使用した基本的運動操作ができる。

3 部位別スクーリング実習に必要なスクレーラーの選択と運動操作法を実施できる。

4 スケーリング操作に必要なミラー・ピンセット・探針の用途・使用方法を概説できる。

5 マネキンを使用した部位別シッケル・キュレットスクレーラーの基本的運動操作が実施できる。

6 ブローピングによって得られる情報を概説できる。

7 シッケル・キュレットスクレーラーのシャープニングが実施できる。

8 マネキンを患者とし、安全を十分配慮した一連のスケーリング操作が実施できる。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯科予防処置概論	歯科予防処置法と歯科衛生士の役割知る。
2	歯牙組織・歯周組織の基礎知識	正常な歯・歯周組織と口腔の機能を知る。
3	歯周病変の基礎知識①	歯周病の分類、進行の過程を知る。
4	歯周病変の基礎知識②	歯周疾患の原因となる因子(リスクファクター)を知る。
5	歯周病変の基礎知識③	口腔内の付着物、沈着物とその為害性を知る。
6	歯周病予防処置に使用する器材	歯周病予防処置に使用する器材の特徴知る。
7	手用スクレーラーの特徴と器具の把持法	手用スクレーラーの特徴と使用目的、把持法を知る。
8	シッケルスクレーラーの特徴と操作方法	シッケルスクレーラーの特徴と使用方法を知る。
9	マネキンの取扱い、操作方法	シンプルマネキンと第2基礎実習室のマネキンの取扱いと安全な操作法を知る。
10		
11	シッケルスクレーラーの基本運動操作①	石膏棒を使用したスクレーラーの運動操作を知る。
12	キュレットスクレーラーの基本操作①	キュレットタイプスクレーラの特徴と使用用途を知る。 顎模型を使用してキュレットの基本操作を知る。
13		

回	項目	内容
14 15	カラーチャート作成・マネキン操作	部位別スケーリング実習に必要なカラーチャートを作成し、部位別の使用スケーラー、ポジショニングを知る。
16 17	探針操作ミラーテクニック	歯周病予防処置に必要なミラー、ピンセット、探針の用途と使用方法を学び、マネキンを使用して操作法体験する。
18 19	マネキンスケーリング(シックルスケーラー)①	マネキンを使用して、部位別に必要なシックルスケーラーの操作を実施する。
20 21	マネキンスケーリング(シックルスケーラー)②	
22 23	マネキンスケーリング(シックルスケーラー)③	
24 25	マネキンスケーリング(キュレットスケーラー)①	マネキンを使用して、部位別に必要なキュレットスケーラーの操作を実施する。
26 27	マネキンスケーリング(キュレットスケーラー)②	
28 29	マネキンスケーリング(キュレットスケーラー)③	
30 31	シックル・キュレットスケーラー基本操作 まとめ	部位別に沿ったシックルスケーラー、キュレットスケーラーを使用した操作を実施する。
32 33	プロービングの基礎知識	プロービングの目的と必要な器材の特徴を知り、プロービングから知り得る情報を概説できる。
34 35	プロービングマネキン実習	マネキンを使用したポケット測定と測定値の記入ができる。
36 37	スケーラーのシャープニング	シャープニングの目的と必要性を理解し、スケーラーの研ぎ方の原則、および鋭利度の判定を実施できる。
38 39 40 41 42 43	マネキンスケーリング実技試験対策①～③	シックルスケーラー、グレイシーキュレットによる部位別に沿ったスケーリングの操作方法と留意点を知る。
44 45	マネキンスケーリング模擬試験	マネキンスケーリング実技試験の要領を確認する。
46 47	マネキンスケーリング実技試験対策④	実技模擬試験での課題を明確にし、指示された部位での安全かつ正確なスケーリング操作が実施できる。
48 49	マネキンスケーリング実技試験	実技試験を通して、マネキンを患者と常に意識した安全なスケーリング操作を実施できる。
50 51	マネキンスケーリング実技再試験	実技試験での問題点を認識し、更に迅速で安全なスケーリング操作を実施できる。

3 授業形態

講義・実習・演習・示説

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版
 歯科衛生学シリーズ 「歯周病学」 医歯薬出版
 クインテッセンス出版 「歯周病学」

5 参考図書・資料

歯科衛生士のための最新歯周病学(医歯薬出版)

6 評価の方法

定期試験 90%

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯周病予防処置		3単位	104時間	2学年	前・後期
担当講師	鬼頭 優子・城 麻依子				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務の実践をしていた歯科衛生士専任教員が教育を行う。		

1 授業目標

【 前期 】

歯周病予防処置を行うために必要な基礎知識・技術及び態度を基に、患者に対して応用・駆使できる能力を習得する。

到達目標

【 前期 】

1 歯周病予防処置を行うために必要な感染対策を確実に実施できる。

2 偶発事故を防止するための知識と対処法を説明できる。

3 特殊な歯周炎と口腔粘膜疾患の原因、症状、対処法を知る。

4 スケーリング時の歯面研磨操作法が実施できる。

5 スケーリングに必要な口腔内の観察、診査ができる。

6 患者に十分な配慮をした一連の部位別スケーリング操作ができる。

7 スケーリング時の業務記録の作成ができる。

【 後期 】

1 超音波スケーラー・エアスケーラーの特徴を理解し、一連の操作を実施できる。

2 歯面清掃器の特徴と用途を理解し、安全な操作ができる。

3 専門家による器械を使用した歯面清掃の意義と術式を知り、安全な操作ができる。

4 臨床実習へ向けて、歯周病処置法を行うための知識、技術、態度を向上する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	感染予防対策・偶発事故の対処法	相互実習を行うために必要な予防対策と偶発事故の対処法を説明できる。
2		
3	特殊な歯周炎と口腔粘膜疾患	特殊な歯周炎と口腔粘膜疾患の原因と症状、治療法を学ぶ。
4		
5	業務記録の記載法	業務記録作成の目的と記載法の留意点、具体的な記載法を演習する。
6		
7	歯面研磨法	歯面研磨の目的及び必要性を理解し、使用器具と研磨剤の特徴を知る。
8		
9	歯面研磨模型実習	歯面研磨に必要な器材の取り扱いを体得する。顎模型を使用したエンジン用研磨器具による操作方法を学ぶ。
10		
11	歯面研磨相互実習	患者の安全に配慮した、歯面研磨操作を実施する。使用器具器材の適切な消毒・滅菌操作を実施する。
12		
13	ブローピング模型実習	患者の安全に配慮したブローピング操作を行うために必要な操作方法を模型上で確認する。
14		
15	ブローピング相互実習	患者の安全に配慮した正確なブローピング操作を体得する。口腔内の状態を把握する能力を培う。
16		
17	マネキンスケーリング復習	相互スケーリング実習を行うために、スケーリングの術式に沿った操作方法を模型上で確認する。
18		
19	手用スケーリング相互実習①	患者の安全に十分配慮した、部位別に沿ったスケーリング操作を行う。
20		
21	手用スケーリング相互実習②	・スケーリング処置についてのインフォームドコンセントができる。
22		
23	手用スケーリング相互実習③	・口腔内診査ができる。
24		
25	手用スケーリング相互実習④	・指示部位への正確なブローピングができる。
26		
27	手用スケーリング相互実習⑤	・部位別に即したシクル・キュレットスケーラー操作ができる。
28		
29	手用スケーリング相互実習⑥	・歯面研磨ができる。
30		
31	超音波スケーラー・エアスケーラーの知識	超音波スケーラーとエアスケーラーの特徴・適応症・禁忌症・操作方法を知る。
32		
33	超音波スケーラー・エアスケーラー模型操作実習	器材の準備と操作方法を模型上で学ぶ。
34		

回	項目	内容
35	超音波スケーラー相互実習①	患者の安全に十分配慮した部位別の操作ができる。 ・スケーリング処置についてのインフォームドコンセントができる。 ・口腔内診査ができる。
36		
37	超音波スケーラー相互実習②	安全な器材の取り扱いと口腔内での操作ができる。 ・感染防止に十分に配慮した行動ができる。 ・エアロゾルに配慮したバキューム操作を実施する。
38		
39	PMTC・歯面清掃器の知識	PMTCの目的・定義・術式を知る。 歯面清掃器使用における適応症、禁忌症を知り、使用方法を学ぶ。 メンテナンスの目的と留意点を知る。
40		
41	PMTC模型操作実習	顎模型を使用して器材の取扱いと操作方法を学ぶ。
42		
43	PMTC・歯面清掃器相互実習①	患者の安全に十分配慮した部位別の操作ができる。 ・処置についてのインフォームドコンセントができる。 ・口腔内診査ができる。
44		
45	PMTC・歯面清掃器相互実習②	安全な器材の取り扱いと口腔内での操作ができる。 ・感染防止に十分に配慮した行動ができる。 ・エアロゾルに配慮したバキューム操作を実施する。
46		
47	歯面清掃器模型操作実習	顎模型を使用して器材の取扱いと操作方法を知る。
48		
49	登院対策①	歯周病予防処置を安全に行うために必要な知識、技術、態度を向上させて登院へ臨む。
50		
51	登院対策②	
52		

3 授業形態

講義・演習・実習・示説

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ 「歯周病学」 医歯薬出版

クインテッセンス出版 「歯周病学」

5 参考図書・資料

ペリオドンタルインストルメンテーション(医歯薬出版)

臨床的ペリオ講座1(医歯薬出版)

6 評価の方法

定期試験 100%

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
う蝕予防処置		1単位	16時間	1学年	後期
担当講師	若松 由香里				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務を実践をしていた歯科衛生士専任教員が教育を行う。		

1 授業目標

1 う蝕予防処置法の種類を知り、その選択方法を説明できる。

2 う蝕の発生要因を知り、全身疾患、生活習慣などの関連を理解する。

3 う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性および便宜性について説明できる。

4 フッ化物応用法の種類とフッ化物製剤の取扱い法を理解し、適応症に合った応用法を説明できる。

5 う蝕活動性試験の目的と種類、各種試験法の特徴を述べることができる。

2 授業計画

回	項目	内容
1	う蝕予防処置論概論	う蝕に対する予防法と歯科衛生士法に基づいたう蝕予防処置について学ぶ。
2	う蝕の発生要因①	う蝕の発生機序と発生要因を知り、各要因の問題点とそれらに対する予防法の概要を学ぶ。
3	う蝕の発生要因②	宿主因子である唾液の働きについて学ぶ。 う蝕誘発能の高い食品の形態と摂取の仕方。 う蝕予防のための食品の摂取方法。 代用甘味料の特徴と効果的な摂取方法を学ぶ。
4	フッ化物の知識①	フッ化物のう蝕予防に対する役割と、全身、局所への応用法を学ぶ。
5	フッ化物の知識②	フッ化物の局所応用について、フッ化物歯面塗布法の種類とその特徴、術式を知る。
6	フッ化物の知識③	フッ化物洗口の応用場面に適した効果的な方法を知る。 フッ化物配合歯磨剤に使用するフッ化物の特徴と、年齢別応用量、効果的な使用法を知る。
7	フッ化物の毒性①	歯牙フッ素症の疫学的特性と急性中毒の症状と発生時の対処法を知る。
8	フッ化物の毒性②	フッ化物の急性中毒発現量(悪心・嘔吐発現フッ化物量)の算出法を学ぶ。

授業形態： 講義 演習

3 教科書

歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」 医歯薬出版

4 参考図書・資料

歯科衛生士テキスト「口腔衛生学」： 学建書院

フッ化物をめぐる誤解を解くための12章+4つの新トピックス ： 医歯薬出版株式会社

5 評価の方法： 筆記試験 100%

6 その他： 特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
う蝕予防処置		1単位	34時間	2学年	前・後期
担当講師	若松 由香里				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務の実践をしていた歯科衛生士専任教員が教育を行う。		
1 授業目標					
1 フッ化物局所応用法の臨床的効果、作用機序、安全性および便宜性について説明できる。					
2 フッ化物局所応用法の術式を理解し、安全に実施できる。					
3 小窩裂溝填塞の適応症、術式、実施上の注意点を理解し、安全に実施できる。					
4 各種う蝕予防処置に応じた事前説明・事後指導を適切に行うことができる。					
5 う蝕活動性試験と口腔内状況、生活習慣などを総合したう蝕予防プログラムの立案ができる。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	フッ化物の局所応用①		フッ化物洗口とフッ化物配合歯磨剤の応用法の対象と留意点、患者指導法について学ぶ。		
2					
3	フッ化物の局所応用②		トレー法に応じた、フッ化物の種類、特徴、使用法、術式、患者指導法について学ぶ。		
4					
5	フッ化物の局所応用③		綿球と歯ブラシを使用した局所応用の防湿法、フッ化物ゲルや溶液塗布の術式と、塗布後の適切な指導法を学ぶ。		
6					
7	フッ化ジアンミン銀の応用		フッ化ジアンミン銀の特徴、使用法、留意点を知る。		
8	小窩裂溝填塞法概要		小窩裂溝填塞の適応症、種類、特徴、術式、実施上の注意点と患者指導法を学ぶ。		
9	小窩裂溝填塞法抜去歯牙填塞		抜去歯牙に小窩裂溝填塞法を実施することにより、酸処理による脱灰状態と填塞状態を確認する。		
10					
11	小窩裂溝填塞法模型填塞		小窩裂溝填塞用歯牙模型を使用して、レジン系シーラント材による小窩裂溝填塞法を行い、準備器材と術式、填塞状態、患者指導法を学ぶ。		
12					
13	う蝕活動性試験①		う蝕活動性試験の目的、種類、スクリーニングの必要性と、検体による試験の特徴を学び、活用しやすい試験法を検討する。		
14					
15	う蝕活動性試験②		微生物因子である、ミュータンス連鎖球菌数と、宿主因子である唾液緩衝能を測定する試験法の術式、実施上の注意点を学ぶ。		
16	カリエスリスク判定によるう蝕予防プログラミング		う蝕活動性試験と口腔清掃状況、う蝕経験指数、生活習慣などの総合評価に基づく予防法と患者指導法を検討する。		
17	ライフステージに応じたう蝕予防		ライフステージによる口腔内の変化に応じた効果的なフッ化物の応用法、口腔清掃法、口腔機能向上によるう蝕予防法を検討する。		
3 授業形態：講義、演習、実習					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版					
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」 医歯薬出版					
5 参考図書・資料					
歯科衛生士テキスト「口腔衛生学」第4版：学建書院					
6 評価の方法：筆記試験100%					
7 その他：特になし					

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科保健指導論		3単位	118時間	1学年	前・後期
担当講師	若松 由香里 ・ 千葉 真美 ・ 荒川 久悦 ・ 鬼頭 優子				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務の実践をしていた歯科衛生士専任教員が教育を行う。		

1 授業目標

〔前期〕

歯科保健指導の概要を知り、基本的な知識・技能・態度を身につける。

〔後期〕

前期で習得した基礎知識をもとに、口腔内に対して応用・駆使できる技術を習得し、保健教育に向けての目標と動機づけを行う。

到達目標

〔前期〕

1 歯科保健指導の意義・健康定義の理念を理解する

2 歯ブラシの各名称と形態を知る

3 使用しやすい歯ブラシを選択できる

4 ブラッシングの目的とブラッシングによる為害作用を知る

5 各種ブラッシング方法の利点と欠点を知る

6 染め出し剤の概要を知り、状況に応じた選択ができる

7 染め出した自己および患者役の口腔内を観察し、チャートの記録ができる

9 歯磨剤の概要を知り、自己の口腔内に適した選択ができる

〔後期〕

1 補助清掃器具の使用法を知り、検討する

2 口腔清掃度の指数を正しく算出する

3 自己の口腔清掃を管理する

4 口腔内を観察した上で口腔正常像を説明できる

5 歯肉や口腔粘膜の状態を説明する

6 食生活指導の基本を知る

7 歯科衛生過程の概要を知る

8 対象から得た情報を正しく認識し、正確に記録する

9 自分で得た専門的な情報を収集・要約・整理する

10 集団の特性を理解し、具体的な指導法を学ぶ

11 媒体の種類と効果を知る

2 授業計画

回	項目	内容
1	オリエンテーション	歯科保健指導の学習の概要を知る
2	保健指導概要	歯科保健指導の定義・考え方・位置づけを理解する
3	保健指導概要	健康の概念・予防の概念を理解する
4	歯ブラシ検討実習	歯ブラシ各部の名称と形態を知るまた、使用しやすい歯ブラシの選択方法を知る
5	ブラッシング法 検討実習①	ブラッシングの目的と為害作用を知る ブラッシングの特性を学ぶ
6	ブラッシング法 検討実習②	各種ブラッシング法の特色を理解し、習得する 毛先法
7	ブラッシング法 検討実習③	
8	ブラッシング法 検討実習④	
9	ブラッシング法 検討実習⑤	各種ブラッシング法の特色を理解し、習得する 脇腹法
10	ブラッシング法 検討実習⑥	指示されたブラッシング法を説明することができる(実技試験)

回	項目	内容
11	ブラッシング法 検討実習⑦	指示されたブラッシング法を説明することができる(実技試験)
12	歯磨剤検討実習①	歯磨剤の概要を理解し、比較し検討する
13	歯磨剤検討実習②	
14	歯ブラシ検討実習(染め出し)	
15	ブラッシング法 検討実習⑧	各種ブラッシング法を相互で体験する 術者・患者を体験する
16	ブラッシング法 検討実習⑨	
17	口腔清掃自習法	染め出しをした自己の口腔内を観察し、チャートに記録ができる。 各種染め出し剤を比較し検討する
18		
19	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理①	分析のためのデータ PCR
20	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理②	分析のためのデータ OHI OHI-S
21	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理③	分析のためのデータ Q&H PHP
22	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理④	歯周疾患の指標 PMA PI CPI
23	歯科衛生過程の進め方①	歯科衛生過程の概要 アセスメント 歯科衛生診断 歯科衛生計画立案
24	歯科衛生過程の進め方②	歯科衛生介入 歯科衛生評価
25	フロッシング実習①	デンタルフロスの必要性和特性を理解する デンタルフロスの使用法を体験し、理解する
26	フロッシング実習②	フロッシング生体実習 相互実習を通して使用法を説明できる
27		
28	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑤	各種指数 指標まとめ
29	歯科保健指導実施の基礎知識②	食生活指導の基礎①
30	歯科保健指導実施の基礎知識②	食生活指導の基礎②
31	歯科保健指導実施の基礎知識②	食生活指導の基礎③
32	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑦⑧	全身の健康状態や歯・口の状態の把握ができる
33	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑥	患者(対象者)からの情報収集 医療面接
34	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑪⑫	初診時における問診と医療面接について理解し、問診事項を検討する。模擬患者訓練を通し情報把握について学ぶ。
35		
36	歯科保健指導実施の基礎知識①	行動変容の要素とそのステップ
37	歯科衛生介入のための歯科保健指導	食生活指導(栄養指導)の進め方 喫煙者に対する指導
38	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑨	作成した問診表を用い問診事項を検討する。 模擬患者訓練を通し情報把握について学ぶ。
39	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑩	
40	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑬⑭	医療面接を実施し、業務記録の記載ができる
41		
42	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑮⑯	口腔内の情報収集
43		
44	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理⑰⑱	患者の歯肉や口腔粘膜の状態を説明できる 観察したことを正確に記録できる
45		
46	補助清掃器具検討実習①	①補助清掃器具特性と指導法を理解する
47		
48	染め出し相互実習①	相互実習を通して、プラークの染色および口腔観察を行いチャートを正確に記入できる
49		
50	補助清掃器具検討実習②	②音波・超音波・電動歯ブラシの特性と指導法を理解する
51		

回	項目	内容
52	染め出し相互実習②	相互実習を通して、プラークの染色および口腔観察を行いチャートを正確に記入できる
53		
54	情報収集・質問票①	質問票の作成法を学び、集団の情報収集について理解する
55		
56	情報収集・質問票②	集団から得た情報の集計・分析について学び、問題解決の方法を考察する
57		
58	地域歯科保健活動	地域歯科保健活動における保健教育
59		

3 授業形態

講義 演習 グループワーク 実習

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版

歯科衛生士シリーズ「保健生態学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「保健情報統計学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

「歯肉を読む」クインテッセンス出版

「歯ブラシ事典」学建書院

「保健指導実習指導者の手引き」医歯薬出版

「口腔保健実践ガイドブック」第2版 学建書院

「歯科衛生ケアプロセス」医歯薬出版

6 評価の方法

定期試験95% 実技試験5%

7 その他

特になし

※教本改訂につき一部内容と順序が変更されることがありますが、そのときは予め連絡します。

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科保健指導論		4単位	144時間	2学年	前・後期
担当講師	若松 由香里 ・ 千葉 真美 ・ 荒川 久悦 ・ 鬼頭 優子				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務の実践をしていた歯科衛生士専任教員が教育を行う。		

1 授業目標

〔前期〕

一年次で習得した歯科保健指導の基本的な知識・技能・態度をもとに各場に適した保健教育ができる。また、対象の問題点を知り、ブラッシング法のみにとられない保健指導法ができる。

〔後期〕

前期までに習得した歯科保健指導の知識・技能・態度をもとに、個人に最も適した歯科保健行動がとれるよう助言・援助できる能力および態度を身につけて、臨床実習に臨む動機づけを行う。

到達目標

〔前期〕

1 集団に対する、話法・発音・発声法を知る

2 各場に適した保健教育の原稿作成を検討する

3 各場に適した媒体の作成と応用ができる

4 各場に適したブラッシングができるまたブラッシングドリルができる

5 小児のう蝕と歯周病の概要を説明できる

6 小児の発達段階とその段階に応じた望ましい歯科保健行動を説明できる

7 各種のブラッシング方法と補助清掃器具の応用を説明できる

8 対象者に合った問題解決の方法を検討する

〔後期〕

1 在宅や各種施設における訪問指導の概要を学ぶ

2 訪問口腔衛生指導に必要な基礎知識と知る

3 口腔ケアの基本的な技術と患者の立場を検討する

4 口腔機能改善のための摂食嚥下リハビリテーションの知識を習得し説明できる

5 口腔機能向上支援の目的を理解し、方法を学ぶ

6 各ライフステージにおける歯科衛生介入について学ぶ

7 各ライフステージに沿った栄養指導を説明できる

8 各ライフステージに適した口腔保健管理について説明できる

9 事例を通して歯科衛生アセスメント・歯科衛生診断・歯科衛生計画立案を行う

2 授業計画

回	項目	内容
1	保健教育オリエンテーション	保健教育の日程・グループ・当時までのスケジュールの発表 媒体の作成方法の検討
2	小集団指導実習①②	保健教育の原稿・媒体作成
3		
5	保健教育の技法①	集団に対する原稿作成・話の組み立て方を知る
5	小集団指導実習③④	保健教育の原稿・媒体作成
6		
7	ライフステージにおける歯科衛生介入①	妊産婦期の特徴・歯科保健指導・栄養・食事摂取基準・食生活指導を知る
8	小集団指導実習⑤⑥	保健教育の原稿・媒体作成
9		
10	ライフステージにおける歯科衛生介入②	新生児期・乳児期の特徴・歯科保健指導・栄養・食事摂取基準・栄養指導を知る
11	小児集団への保健指導①	小児のう蝕・歯周病についてのレポートを通してグループで検討する
12		
13	ライフステージにおける歯科衛生介入③	幼児期の特徴・歯科保健指導・栄養・食事摂取基準・食生活指導を知る
14	小集団指導実習⑦	保健教育の原稿・媒体作成

回	項目	内容
15	小集団指導実習⑧	保健教育の原稿・媒体作成
16	ライフステージにおける歯科衛生介入④	学齢期の特徴・歯科保健指導・栄養・食事摂取基準・食生活指導を知る
17	小集団指導実習⑨⑩	保健教育の原稿・媒体作成
18		
19	小集団指導実習⑪⑫	保健教育の原稿・媒体作成
20		
21	保健教育の技法②	小児に適したブラッシング方法を検討する（ブラッシングドリル）
22	小集団指導実習⑬⑭	保健教育の原稿・媒体作成
23		
24	小集団指導実習⑮⑯	保健教育の原稿・媒体作成
25		
26	小集団指導実習⑰⑱	保健教育の原稿・媒体作成
27		
28	小集団指導実習⑲⑳	保健教育の原稿・媒体作成
29		
30	小集団指導実習㉑㉒	場当たり（低学年）
31		
32	小集団指導実習㉓㉔	場当たり（低学年）
33		
34	小集団指導実習㉕㉖	ユリアナ幼稚園準備①②
35		
36	小集団への保健指導②	集団に対する話法・発音・発声法を知る
37	小集団指導実習㉗㉘	ユリアナ幼稚園準備③④
38		
39	小集団指導実習㉙㉚	ユリアナ幼稚園準備⑤⑥
40		
41	小集団指導実習㉛㉜	ユリアナ幼稚園リハーサル
42		
43	小集団指導実習㉝㉞	高学年準備
44		
45	小集団指導実習㉟㊱	場当たり（高学年）
46		
47	小集団指導実習㊲㊳	場当たり（高学年）
48		
49	小集団指導実習㊴㊵	高学年リハーサル
50		
51	小集団指導実習㊶㊷	高学年リハーサル
52		
53	小集団指導実習㊸㊹	低学年リハーサル
54		
55	ライフステージにおける歯科衛生介入⑤	青年期の特徴・歯科保健指導・栄養・食事摂取基準・食生活指導を知る
56	歯科衛生過程の演習①	事例を通して歯科衛生アセスメント・歯科衛生診断・歯科衛生計画立案を行う
57		

58	ライフステージにおける歯科衛生介入⑥	成人期の特徴・歯科保健指導・栄養・食事摂取基準・食生活指導を知る
59	歯科衛生過程の演習②	事例を通して歯科衛生アセスメント・歯科衛生診断・歯科衛生計画立案を行う
60		
61	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦	老年期の特徴・歯科保健指導・栄養・食事摂取基準・食生活指導を知る
62	口腔ケア講義	口腔ケアの概念を学ぶ
63	業務記録の作成	口腔衛生管理・生活習慣指導・食生活指導についての書面化
64	口腔ケア実習①	口腔ケアの一連の流れと基本的技術・注意点について理解する
65		
66	口腔ケア実習②	口腔ケアの一連の流れと基本的技術・注意点について理解する
67		
68	ライフステージにおける歯科衛生介入⑧	配慮を要する者への歯科衛生介入①(要介護高齢者)
69	口腔ケア実習③	口腔ケアの一連の流れと基本的技術・注意点について理解する
70		
71	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑨	配慮を要する者への歯科衛生介入②(障害児者)
72	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑩	配慮を要する者への歯科衛生介入③(大規模災害被災者)

3 授業形態

講義 演習 グループワーク 実習

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版
 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

「保健指導実習指導者の手引き」医歯薬出版
 歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」医歯薬出版
 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」医歯薬出版
 歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」医歯薬出版
 「介護保険と口腔ケアプラン」医歯薬出版
 「実践！介護予防 口腔機能向上マニュアル」財団法人 東京都高齢者研究・福祉進行財団

6 評価の方法

定期試験100%

7 その他

特になし

※教本改訂につき一部内容と順序が変更されることがありますが、そのときは予め連絡します。

科目名		単位	時間	学年	開講期
栄養指導		1単位	16時間	1学年	後期
担当講師	石川 トモ子				
実務経験	○	経歴	病院等で実務経験のある管理栄養士が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

栄養学の知識を基に、食品の分類や実際の日常生活での注意点を学び、歯科疾患や誤嚥性肺炎の予防などの面から、シチュエーションに応じた指導ができるようになる。

2 授業計画

回	項目	内容
1 5 4	I 栄養指導とは II 栄養指導の目的 III 食生活把握法 各種調査法	概論 歯科における栄養指導 国民栄養調査、食事評価法、嗜好調査 生活時間調査、食生活に対する地域および意識調査
	1章 食生活の概要 I 食生活の意味 1. 食生活の変化 2. 近年の食生活の特徴 3. 食欲と嗜好	国民の栄養調査から摂取が増加しているもの、不足しているもの、その他の特徴
	2章 食 品 I 食品成分表 II 食品の栄養学的特徴 III 酸性食品とアルカリ性食品 IV 栄養のバランス 1. エネルギー補給食品 2. タンパク質補給食品	食品標準成分表 三分類、四分類、六分類
	V 食品の成分 1. 食品成分表の使い方 2. 食品ごとの成分特徴	食品成分表の項目、各種計算法について 第六次日本人の栄養所要量 具体的な食品を示しての成分の特徴 健康日本21、食生活指針、食事バランスガイド 国民健康栄養調査
	各ライフステージでの栄養指導の要点	離乳食、幼児食、小学生、中高生、成人、高齢者における一般的な食生活の問題点と改善点
	5 5 8	4章 咀嚼と食品 I 咀 嚼 1. 咀嚼の定義 2. 咀嚼の目的と意義 3. 咀嚼障害 4. 咀嚼機能の発達 5. 乳幼児、老人の咀嚼 6. 咀嚼と歯科疾患
II 食生活と咀嚼 1. 咀嚼と食物 2. 離 乳 3. 間 食		
VI 幼児食の考え方と指導 1. 食事の自立と食習慣の確立 2. 食事のとり方 3. 幼児の間食習慣 4. 食欲不振 5. おいしさを決める要素 6. 乳歯齲蝕と食生活 7. 幼児食の分析		幼児から小児期、成人期への食習慣と注意点 孤食について 間食の意義、量 噛めない原因 味、におい、彩り、テクスチャー、温度、咀嚼音 乳歯齲蝕の特徴 口腔清掃指導 1歳6か月児健診 食事記録
III 歯の喪失と食生活 1. 齲蝕と食生活		カイスの3つの輪

回	項目	内容
5 8	3章 食品の齲蝕誘発性 I 齲蝕と食品 1. 砂糖と齲蝕 2. 食品の齲蝕誘発能 3. 代用甘味料 4. 糖質以外の栄養素と齲蝕	カイスの3つの輪 ビベホルム研究 食品の齲蝕誘発能指数 代用甘味料の種類と特徴
	VII 甘味食品の摂取量 1. 甘味嗜好と食生活 2. 甘味嗜好と間食 3. 甘味嗜好と代用甘味料 4. 甘味食品の与え方	回数、質、量のコントロール
	IV 栄養指導の進め方 1. 調査結果の分析・診断法 1) 一般的栄養指導分析 2) シュガーコントロール 2. 指導目標、計画の設定 3. 実施 4. 効果判定	食品群・基礎食品群の分類 ステファンカーブ、歯垢形成能、酸産生能
	III 歯の喪失と食生活 2. 歯周疾患と食生活	
	VIII 特殊患者への食事指導	心身障害者の特徴と食生活 寝たきり老人の特徴と食生活

3 授業形態

講義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3「栄養学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

特になし

6 評価の方法

定期試験80%および授業態度20%の総合評価による。

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
栄養学		1単位	20時間	1学年	後期
担当講師	辻 任				
実務経験	○	経歴	口腔保健センターにて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
近年、歯科医学が健康科学の一領域として明確に位置づけられるなか、歯科衛生士にも「ヒトという生命全体の形態や機能を理解すること」が求められている。このような背景のもと、生化学に基づく知識を土台としながら「栄養学」を学ぶことはきわめて自然な流れであり、歯科衛生士教育において欠かせない要素となっている。 歯科衛生士が「栄養学」を学ぶことで、口腔健康管理と全身の健康との深い関連性を知り、栄養学の知識を習得・活用できることを目標とする。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	栄養素と歯科衛生士		①栄養の概念 ②栄養と食生活の意義 ③歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義		
2	栄養素の消化と吸収		①消化・吸収と栄養 ②消化の種類 ③消化の過程 ④吸収のメカニズム ⑤栄養素の体内動態 ⑥栄養素別の消化・吸収		
3	栄養素の種類とはたらき①(糖質)		①糖質の種類 ②糖質のはたらき ③糖質とその他の栄養素との関係		
4	栄養素の種類とはたらき②(脂質)		①脂質の種類 ②脂質のはたらき		
5	栄養素の種類とはたらき③(タンパク質)		①タンパク質の種類 ②タンパク質のはたらき ③摂取タンパク質の量と質の評価		
6	栄養素の種類とはたらき④(ビタミン)		①ビタミンの種類 ②ビタミンのはたらき		
7	栄養素の種類とはたらき⑤(ミネラル)		①ミネラルの種類 ②ミネラルのはたらき		
8	栄養素の種類とはたらき⑥(食物繊維と水)		①食物繊維の種類 ②食物繊維のはたらき ③生体内の水の分布 ④水のはたらき ⑤水の出納		
9	健康と栄養		①食生活を取り巻く施策 ②日本人の食事摂取基準 ③食品の安全		
10	食事と食品		①食品に含まれる栄養素 ②食品の機能 ③食品の表示		
3 授業形態					
講 義					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3「栄養学」 医歯薬出版					
5 参考図書・資料					
臨床歯科栄養学 ―歯科に求められる栄養の基礎知識― 一般財団法人 口腔保健協会					
6 評価の方法					
定期試験80%＋小テスト20%による総合評価とする。					
7 その他					
特になし					

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科材料学		1単位	16時間	1学年	前期
担当講師	梅津 正哉				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

歯科材料を扱う上で求められる普遍的な姿勢を身につけ、さらに各種歯科材料の基本的性質・用途・取り扱い方法について熟知し、適切な状態で使用できるように標準的な使用法を習得することを目的とする。
歯科材料の取り扱いは、歯科衛生士が身につける知識の中でも非常に重要な位置を占めており、復習を含め必要・重要事項を把握する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	歯科材料の基礎知識と基本的性質	歯科材料総論(分類・所要性質・用途・取り扱い)
2	シーラント(窩溝充填材)・仮封材・仮着材	種類・用途・取り扱いについて
3	ガラスイオノマーセメント・歯科用アマルガム	分類・組成・用途・長所および短所・取り扱い
4	コンポジットレジン・即時重合レジン	分類・組成・用途・接着システム・取り扱い
5	印象材	親水性(ハイドロコロイド)印象材
6		ゴム質印象材・その他の印象材
7	歯科用石膏・歯科用ワックス	分類・組成・種類・用途・取り扱い
8	歯科用セメント	分類・組成・用途・合着と接着・取り扱い

3 授業形態

講 義

4 教科書

歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 医歯薬出版

5 参考図書・資料

スタンダード歯科理工学 第5版 学健書院

6 評価の方法

定期試験90% 授業態度10%による総合評価とする。

7 その他

特になし

科目名	単位	時間	学年	開講期
臨床検査	1単位	24時間	2学年	後期
担当講師	友田 豊 ・ 橘 峰司			
1 授業目標				
臨床検査は患者の全身状態を把握するうえで重要な情報源となる。臨床検査の意義を理解し、患者から得られた検査結果を正しく解釈し患者の病態を理解出来る事を目標とする。				
2 授業計画				
回	項目	内容		
1	臨床検査総論、口腔領域の臨床検査	・臨床検査の種類と目的、・正常範囲の考え方 ・う蝕と歯周病検査、・その他の口腔領域検査		
2	生理機能検査 血液学的検査	バイタルサインに関わる検査 心機能検査 肺機能検査 閉塞性睡眠時無呼吸の検査 血液学的検査の基本 赤血球の検査 白血球の検査		
3	感染症の検査 肝機能の検査	微生物学的検査 感染症に関わる血液学的検査 主な感染症の検査 肝臓の構造と機能 肝機能検査 肝機能検査に関わる疾患		
4	腎機能の検査 糖尿病の検査	腎臓の構造と機能 主な腎臓の検査 腎機能の検査 に関わる疾患 糖代謝のメカニズム 糖尿病の検査 糖尿病とは		
5	実習（生理機能検査、尿たんぱく・尿糖の検査）	・実際に脈拍測定、血圧測定、尿検査を実施し、測定に際しての注意点、測定値から生体の状態を理解することを目的とする。		
6	免疫検査、病理検査、画像検査	内分泌・免疫疾患の検査、腫瘍マーカーと検査値の読み方 病理・細胞診検査、画像検査		
7	輸血に関する検査 実習（血液型検査と判定）	・血液型と検査、交差適合試験について理解する ・ABO式血液型検査を行い、結果判定が出来ることを目的とする。		
8	臨床検査値と体の異常（1）	疾患と臨床検査値の変動、臨床検査値の読み方（心疾患、血液疾患等）		
9	臨床検査値と体の異常（2）	疾患と臨床検査値の変動、臨床検査値の読み方（感染性疾患、肝疾患等）		
10	臨床検査値と体の異常（3）	疾患と臨床検査値の変動、臨床検査値の読み方（腎疾患、糖尿病関連）		
11	臨床検査値と体の異常（4）	疾患と臨床検査値の変動、臨床検査値の読み方（腫瘍疾患等）、腫瘍マーカーについて		
12	臨床検査の基準値と結果の解釈	・臨床検査の基準値まとめ ・検査項目と検査結果の解釈 ・演習問題		
3 授業形態				
講義、実習、グループワーク				
4 教科書				
歯科衛生学シリーズ「臨床検査」 医歯薬出版				
5 参考図書・資料				
授業に際し関連のプリントを資料として配布する。				
6 評価の方法				
定期試験等の成績に基づいて、次のとおり判定する。 優・良・可・不可の4段階に分け、100点満点の80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可、60点未満を不可とし、可以上を合格として単位を認定する。なお、定期試験の受験には3分の2以上の出席が必要である。 実習に際して提出されるレポートも単位認定の補助として利用し定期試験の成績に加点する。				
7 その他				
授業後はプリントを中心に復習し臨床検査を総括的に理解することを望む。				

科目名	単位	時間	学年	開講期
歯科診療補助論	3単位	120時間	1学年	前・後期
担当講師	岸部 絵美 ・ 荒川 久悦			
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務の実践をしていた歯科衛生士専任教員が教育を行う。	

1 授業目標

[前期]

歯科診療補助における歯科衛生士の役割を知り、医療従事者としての感染予防対策法を習得する。

[後期]

共同動作における知識、技術、態度と、主要材料の種類、特徴、用途、取り扱い方法を習得する。

到達目標

[前期]

- 1 アルジネート印象材の練和を体験する。
- 2 歯科診療補助における歯科衛生士の業務内容と法的解釈を理解する。
- 3 歯科診療室の環境整備の必要性を知る。
- 4 歯科用チェアユニット各部の役割ならびに歯科診療を安全に行うための設備を知る。
- 5 医療安全の概念を知り、インシデント・アクシデント報告の目的を理解する。
- 6 歯科医療における感染症の概念とその対策法を知る。
- 7 スタンダードプレコーションを具合的に説明できる。
- 8 滅菌と消毒の定義が説明できる
- 9 滅菌、消毒、洗浄の方法を説明できる。
- 10 消毒剤の特徴と用途を理解できる。
- 11 歯科用器材に応じた滅菌、消毒、洗浄法を理解できる。
- 12 手指消毒の手順を知り、グローブの装着・脱着ができる。
- 13 感染性廃棄物の分類と分別を理解できる。
- 14 合着用セメントの取り扱い方法を体験する。

[後期]

- 1 各種合着用セメントの特徴と取り扱い方法を知り、練和技術を習得する。
・リン酸亜鉛セメント、カルボキシレートセメント、グラスアイオノマーセメント、
レジン添加型グラスアイオノマーセメント
- 2 接着用セメントの特徴と取り扱い方法を知る。
- 3 各種仮封材の特徴と取り扱い方法を知り、練和と模型填塞技術を習得する。
・テンポラリーストップピング、水硬性仮封材、酸化亜鉛ユージノールセメント、レジン系仮封材、仮着用セメント
- 4 歯科用ユニットの取り扱い方法を習得する。
- 5 共同動作に必要なポジショニングや姿勢に留意したフォーハンドテクニックを習得する。
- 6 口腔内写真撮影の必要性和器材の取り扱い法を知り、撮影を実施する。
- 7 歯科用石膏の種類、特徴、用途を理解し、模型作製を体得する。
・普通石膏、硬質石膏、超硬質石膏
- 8 各種印象材の種類、特徴、用途を知る。
・アルジネート印象材、寒天印象材、ゴム質印象材、コンパウンド印象材、酸化亜鉛ユージノール印象材等
- 9 各種印象材の取り扱い方法を理解し、印象採得方法を習得する。
・アルジネート印象材、寒天印象材、ゴム質印象材
- 10 各種綿花の取り扱い方法を知り、ブローチ綿栓の作製を体験する。
- 11 器具受け渡し時の基本的ルールを知る。
- 12 成形修復材の種類、特徴、取り扱い方法を知り、顎模型での充填ができる。
・光重合型コンポジットレジン、従来型グラスアイオノマーセメント
- 13 顎模型で充填した修復材の研磨ができる。
- 14 歯間分離と隔壁の目的と修復窩洞形態に適した隔壁の方法を知る。

2 授業計画

回	項目	内容
1	オリエンテーション(アルジネート印象材練和体験)	アルジネート印象材練和体験を通じて学習への動機づけを行う。
2	歯科診療補助と歯科衛生士	歯科診療補助における歯科衛生士の業務内容と法的解釈を理解する。
3	歯科診療室の環境整備と診療器材	歯科診療室の環境整備と診療に使用する器材の役割を知る。
4	医療安全の概念と安全対策	医療安全の概念を知り、インシデント・アクシデント報告の目的を理解する。
5	歯科医療における感染症の概念とその対策法	感染予防対策の具体的方法を知り、スタンダードプレコーションの徹底と、リスクアセスメントの理解。
6	滅菌と消毒①	滅菌、消毒、洗浄の定義を理解し、滅菌・消毒の方法を理解する。
7	滅菌と消毒②	消毒剤の抗微生物スペクトルを知り、使用用途と濃度を理解する。
8	滅菌と消毒③	使用済み器材を安全に取り扱うための滅菌・消毒法と感染性廃棄物の取り扱い方法を理解する。
9	手指消毒と器材滅菌	感染防止の基本である手指消毒の手順と、高圧蒸気滅菌器の使用法を習得する。
10	合着用セメントの取り扱い①・②	歯科主要材料である合着用セメントの練和体験を行う。
11		
12	合着用セメントの取り扱い③・④	歯科主要材料である合着用セメントの種類、性質、用途と取り扱い方法を知り、練和技術を習得する。
13		
14	合着用セメントの取り扱い⑤・⑥	
15		
16	仮封材の練和・填塞①・②	歯科治療で多岐に渡る使用用途である仮封材の種類、性質、用途を知り、練和と顎模型上での填塞技術を習得する。
17		
18	仮封材の練和・填塞③・④	
19		
20	ユニット取り扱い 患者誘導	歯科用ユニットの取り扱いと、共同動作の基本的ポジション、患者誘導の留意点を習得する。
21		
22	バキューム操作 口腔内写真撮影模型実習	バキューム、スリーウェイシリンジの使用目的と基本的操作方法、口腔内写真撮影の目的と留意点を知り、ファントムと顎模型で体験する。
23		
24	合着用セメントの練和実技試験	合着用セメントの用途を述べ、練和技術習熟度を確認する。
25		
26	バキューム操作 口腔内撮影相互実習①・②	共同動作における役割を知り、フォーハンドシステムと口腔内写真撮影を相互間で行う。
27		
28	バキューム操作 口腔内撮影相互実習③・④	共同動作と口腔内写真撮影の相互実習を通して、術者役、患者役への配慮した知識、技術、態度を習得する。
29		
30	合着用セメントの練和実技最終試験	合着用セメントの用途を述べ、練和技術習熟度を確認する。
31		
32	石膏の取り扱い	歯科用石膏の種類、性質、用途と取り扱い方法を知り、模型作製を行う。
33		
34	アルジネート印象材の取り扱い①	印象材の種類、分類、使用用途を知り、アルジネート印象材の取り扱いと練和技術を習得する。
35		

回	項目	内容
36	器具受け渡し。ブローチ綿栓作製	バステクの基本ルールを知り、器具・器材に適した手渡しの方法を習得する。 ブローチ綿栓の使用用途を知り、作製方法を習得する。
37		
38	アルジネート印象材 模型採得実習	アルジネート印象材を用いてファントムと顎模型上での採得を行い、模型作製を行う。
39		
40	アルジネート印象材 片顎相互採得実習	アルジネート印象材を用いて片顎への相互採得を実践し、模型作製を行う。
41		
42	連合印象(アルジネート+寒天) 模型採得実習	寒天印象材の性質と取り扱い方法を知り、模型上での連合印象採得を体験し模型作製を行う。
43		
44	連合印象(アルジネート+寒天) 片顎相互採得実習	連合印象採得を相互で行うことにより、アルジネート・寒天印象材の性質を体得し、模型作製を行う。
45		
46	ゴム質印象材 片顎模型採得実習	ゴム質印象材の性質と取り扱い方法を知り、模型上での連合印象採得を体験する。
47		
48	光重合型コンポジットレジン成形修復	光重合型コンポジットレジンの性質、接着システムを理解し、ファントムと顎模型を使用した充填により、術式と留意点を習得する。
49		
50	ゴム質印象材 片顎相互採得実習	連合印象採得を相互で行うことにより、ゴム質印象材の性質を体得する。
51		
52	アルジネート印象材 相互実習 全顎(下顎)	アルジネート印象材を用いて下顎の相互採得を行い、模型作製を行う。
53		
54	アルジネート印象材 相互実習 全顎(上顎)	アルジネート印象材を用いて上顎の相互採得を行い、模型作製を行う。
55		
56	ガラスアイオノマーセメント成型修復 隔壁調整	ガラスアイオノマーセメント充填の性質を理解し、ファントムと顎模型を使用した充填により、術式と留意点を習得する。 修復窩洞に適した隔壁の方法を理解する。
57		
58	セメント練和 まとめ	暫間被覆冠と仮着セメントを使用して、修復物、補綴物合着時のアシスタントワークを習得する。
59		
60	成形修復材研磨①、②	ガラスアイオノマーセメント、コンポジットレジン修復による研磨の目的、使用器材と術式を知り、ファントムと顎模型を使用して研磨を行う。
61		

3 授業形態

講義・実習

4 教科書

- ・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「歯科材料」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「歯科機器」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版

5 参考図書

- ・第3版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎
- ・新・歯科衛生教育マニュアル 保存修復 クインテッセンス出版株式会社

6 評価の方法

- ・定期試験： 90%
- ・実技試験： 10%

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
歯科診療補助論		4単位	132時間	2学年	前・後期
担当講師	岸部 絵美 ・ 荒川 久悦				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務の実践をしていた歯科衛生士専任教員が教育を行う。		

1 授業目標

[前期]

一年次に習得した歯科診療補助の基本的な知識・技術をもとに、より実践的な知識や技術、態度を習得する。

[後期]

前期までに習得した歯科診療補助の知識や技術をさらに向上し、臨床実習に臨む動機づけを行う。

到達目標

[前期]

1 ラバーダム防湿の目的と術式を知り、顎模型、口腔内で安全に装着ができる。

2 各種保存修復、歯内療法処置に必要な器材、薬剤の使用方法を知り、術式に沿ったセッティングと患者指導を述べるができる。

3 暫間被覆冠の目的と使用方法、作製方法を習得する。

4 各種口腔外科処置時に必要な知識と器材の使用方法を知り、術式に沿ったセッティングを習得する。

5 補綴処置時に必要な知識と器材の使用方法を習得する。

6 補綴物装着時における研磨方法を習得する。

[後期]

1 矯正処置時に必要な知識と器材の使用方法を習得する。

2 歯科診療時に必要な介護技術を習得する。

3 スタディモデルの目的と作製方法を習得する。

4 歯科用ワックスの種類と用途、取り扱い方法を習得する。

5 各種印象材の取り扱いと採得技術を向上する。

6 各種合着材、仮封材、仮着材の取り扱いと練和技術を向上する。

7 困難抜歯時における麻酔の準備、器材の準備と取り扱い方法を熟知したセッティングと術後の患者指導ができる。

8 臨床実習に向けて、歯科診療補助業務への知識、技術、態度を向上する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	暫間被覆冠・歯肉圧排	暫間被覆冠に使用する器具器材、基礎知識を習得。 歯肉圧排の基礎、使用する器具、器材、薬剤を理解する。
2		
3	暫間被覆冠作製①・②	暫間被覆冠の目的と作製方法を習得する。 (既成冠による作製)
4		
5	暫間被覆冠作製③・④	暫間被覆冠の目的と作製方法を習得する。 (印象法による作製)
6		
7	暫間被覆冠作製⑤・⑥	暫間被覆冠作製方法の目的と作製方法を習得する。 (レジン手練りによる作製)
8		
9	ラバーダム防湿 模型装着実習①	ラバーダム防湿の目的と術式を知り、模型上で装着する。
10		
11	ラバーダム防湿 模型装着実習②	ラバーダム防湿の目的と術式を理解し、模型上で安全かつ迅速な装着ができる。
12		
13	ラバーダム防湿 模型装着実習③	ラバーダム防湿の目的と術式を理解し、模型上で安全かつ迅速な装着ができるか模型上で実技試験を行う。
14		
15	ラバーダム防湿 相互実習	ラバーダム防湿の目的と術式を理解し、口腔内で安全かつ迅速な装着ができる。
16		
17	歯内療法器材 セッティング①	歯内療法の術式に必要な知識、使用する器材と薬剤の使用方法と取り扱い方法を習得する。 (歯髄鎮痛鎮静、覆髄法、IPC、生活歯髄切断法)
18		
19	歯内療法器材 セッティング②	歯内療法の術式に必要な器材の使用用途、薬剤の使用用途、症例に合わせた術式を理解する。 歯内療法の各症例に合わせた術式等も理解し知識、治療の流れを習得する。
20		

	項目	内容
21	歯内療法セッティング 確認時実習	各症例に応じた術式を熟知したうえで必要器材の選択ができ、使用方法や処置後の患者指導を述べることができる。
22		
23	歯内療法 セッティング 実技 口頭諮問試験	歯内療法に必要な薬剤と器材の使用方法を習熟し、確実なセッティングができる。症例に合わせての患者説明までできるようになる。
24		
25	アルジネート印象材全額 相互印象採得	アルジネート印象材を使用して、患者に十分な配慮で印象採得を行う。
26		
27	連合印象材 寒天印象材 相互実習	事前の患者S指導、口腔内に合ったトレー選択、確実な印象材練和と寒天印象材の取り扱いの技術を習得する。術式と技術の流れを習得する。
28		
29	訪問診療の実際 全身疾患について	訪問診療についての概要を理解し必要な器材、薬剤、治療の流れを習得する。訪問診療における感染予防対策や口腔健康管理を理解する。
30		
31	車椅子	車椅子についての各名称、取り扱い方法などを理解する。
32		
33	口腔機能向上支援 ①	口腔の機能について理解する。 口腔機能について事前アセスメントがとれる。
34		
35	口腔機能向上支援 ②	口腔機能向上のための具体的なプログラムについて理解できる。
36		
37	口腔機能向上支援 ③	口腔機能改善管理指導計画を立てることが出来る。 モニタリング・事後アセスメントの必要性が理解できる。
38		
39	口腔外科 ①	口腔外科処置時に必要な器材の使用方法を習熟し、確実なセッティングができる。
40		
41	口腔外科 ②	各症例に応じた術式を熟知したうえで必要器材の選択ができ、使用方法や処置後の患者指導を述べることができる。
42		
43	口腔外科 ③	各症例に応じた術式を熟知したうえで必要器材の選択ができ、使用方法や処置後の患者指導を述べることができる。
44		
45	口腔外科 確認実習	口腔外科処置時に必要な器材の使用方法を習熟し、確実なセッティングができる。
46		
47	口腔外科 口頭試問試験	各症例に応じた術式を熟知したうえで必要器材の選択ができ、使用方法や処置後の患者指導を述べることができる。
48		
49	WAXの取り扱い	各種WAXの特徴、種類、用途を説明できる。
50		
51	補綴セッティング ①	補綴治療の特徴を理解し手順に沿った器材を準備する事ができる。
52		
53	補綴セッティング ②	
54		
55	合着材、仮封・仮着材の取り扱い	各種合着材と仮着、仮封材の使用目的を確認し、練和からセメント除去、患者指導までの一連の流れを習得する。
56		
57	ホワイトニング	ホワイトニングについて、各症例に合わせての使用する器具器材、薬剤、術式を理解し患者指導も出来るようになる。
58		
59	登院試験前 確認実習①	登院試験項目の知識、技術、態度の向上。
60		
61	登院試験前 確認実習②	登院試験項目の知識、技術、態度の向上。
62		
63	登院試験前 確認実習③	登院試験項目の知識、技術、態度の向上。
64		
65	登院試験前 確認実習④	登院試験項目の知識、技術、態度の向上。
66		

3 授業形態

講義・実習・示説

4 教科書

〔前期〕

- ・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「歯科材料」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「歯科機器」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「歯周病学」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」医歯薬出版

〔後期〕

- ・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「歯科材料」医歯薬出版
- ・歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」医歯薬出版

5 参考図書・資料

- ・新・歯科衛生教育マニュアル 保存修復 クインテッセンス出版株式会社
- ・新・歯科衛生教育マニュアル 歯周病学 クインテッセンス出版株式会社
- ・新・歯科衛生教育マニュアル 口腔外科学・歯科麻酔学 クインテッセンス出版株式会社
- ・新・歯科衛生教育マニュアル 歯科補綴学 クインテッセンス出版株式会社
- ・新・歯科衛生教育マニュアル 歯科矯正学 クインテッセンス出版株式会社

6 評価の方法

- ・定期試験： 90%
- ・実技試験： 10%

7 その他

特になし

科目名	単位	時間	学年	開講期
臨床実習(臨地実習含む)	20単位	900時間	全学年	前・後期
担当講師	協力歯科医師等			
実務経験	○	経歴	各医院にて実務経験のある歯科医師及び歯科衛生士が教育を行う。	
1 授業目標				
(1) 歯科臨床の場で歯科の診療が円滑にできるように、予防を含めた診療の全域にわたって、歯科医師のよきパートナーであることを学ぶ。 (2) 歯科医学や歯科医術について理解を深める。 (3) 直接の業務である歯科予防処置、歯科診療の補助および歯科保健指導についての知識と技能については十分習熟できるように。 (4) 直接人に接して、その安全を確保する業務であるので、人とその健康への理解と、いろいろの変化に応じて適切に対応できる態度を養う。 (5) 公衆歯科衛生活動に従事できる基礎的な知識、技能および態度を養う。				
2 評価の方法				
出席状況50%・実習先医院からの評価50%				
3 その他				
特になし				

科目名		単位	時間	学年	開講期
総合学習		2単位	90時間	3学年	前・後期
担当講師	荒川 久悦・鬼頭 優子・岸部 絵美・若松 由香里・城 麻依子・千葉 真美				
実務経験	○	経歴	歯科診療所にて歯科衛生士業務の実践をしていた専任教員が教育を行う。		
1 授業目標					
1 資料収集の方法、レポート作成および発表の技法を学ぶ。					
2 臨床実習における知識の理解度を深める。					
3 3年間を通じて学んだ学習を総合的に理解するとともに知識・理解の集大成とする。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	総合的学習Ⅰ		自テーマの決定		
～	主に臨床歯科医学の内容に準じた総合的な内容の研究テーマに基づき、レポート作成を行い、発表等を行う。		情報収集		
			基礎科目を含む臨床科目の総合的な復習		
			レポート作成		
			発表準備		
10					
11			発表原稿作成		
12					
13			発表		
14					
15			まとめ・考察		
16	総合的学習Ⅱ				
	総合的学習を通じた授業とする				
	①基礎医学 (解剖学・生理学・生化学・栄養学・病理学・微生物学・薬理学・口腔衛生学・衛生学・公衆衛生学・衛生行政・社会福祉)				
～	②臨床歯科医学 (歯科衛生士概論・歯科臨床概論・歯科保存学・歯科補綴学・口腔外科学・歯科矯正学・小児歯科学・高齢者歯科学・心身障がい者歯科学・歯科放射線学)				
	主要三科目				
	③歯科予防処置論				
	④歯科診療補助論				
	⑤歯科保健指導論				
45					
3 授業形態					
講義、示説、口頭試問					
4 教科書					
教本					
5 参考図書・資料					
特になし					
6 評価の方法					
総合学習Ⅰ 出席点も含めて評価します 総合学習Ⅱ 定期試験 100%					
7 その他					
特になし					

科目名		単位	時間	学年	開講期
行動科学		1単位	20時間	2学年	後期
担当講師	五十嵐 一真				
実務経験	○	経歴	旭川医科大学で歯科医師業務を実践している教員が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

近年、医療（歯科医療）は、患者さんから選択され、評価される環境にあります。患者さんが病院や医院、歯科医院を受診するとき、「どのような医療サービスが受けられるのか」ということを見極めたうえで、受診するところを決めています。患者さんに評価されやすい歯科医療サービスの中には、歯科衛生士や歯科助手、受付などいわゆるコ・デンタルスタッフの接遇や対応サービスがあります。この講義では、歯科衛生士の歯科医院での対人コミュニケーション能力を高め、実践できるようになることを目的とします。そのためには人間の基本的な行動や考え方を知り、その基礎の上に立って、患者心理を知ることが大切です。これらを講義を通して学びます。

2 授業計画

回	項目	内容
1	行動科学1	健康信念モデル
2	行動科学2	自己効力感 変化のステージモデル
3	行動科学3	計画的行動理論 ストレスとコーピング
4	行動科学4	ソーシャルサポート コントロール所在
5	行動科学5	前半のまとめ
6	コミュニケーション1	質問のスキル 促しのスキル
7	コミュニケーション2	パーソナリティとコミュニケーション
8	コミュニケーション3	医療安全とコミュニケーション
9	コミュニケーション4	心的防衛機制
10	コミュニケーション5	リフレーミング

3 授業形態

講義

4 教科書

松本千明 著「医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 第2版」医歯薬出版

5 参考図書・資料

プリント使用

高津茂樹著「歯科医院での対人コミュニケーション: 自己評価できる決定的瞬間80」クインテッセンス出版

6 評価の方法

定期試験(90%)、授業態度(10%)を基準に総合的に評価する。積極的に質問し議論に参加すること。

7 その他

特になし

科目名		単位	時間	学年	開講期
接遇		1単位	16時間	2学年	前期
担当講師	本間 紀子				
実務経験	○	経歴	歯科衛生士の免許を持ち、ホスピタリティマナー講師経験のある教員が該当科目の教育を行う		

1 授業目標

他人との交流は難しいものであるが、患者となると更に難しくなる。良い接遇が出来るか否かは、その歯科診療所が生き残れるか否かを左右する重要なことと捉えて接遇の基礎から実践までの知識を修得する。対外的な接遇が大切であると同時に同じ職場で働く者同士にもコミュニケーションが生じる以上、良い接遇を修得して同じ職場の人間関係を円滑にし、対外的なサービスを向上させることを目的とする。この授業は歯科診療所で働くスタッフとして知っておくべき必要最小限の接遇・マナーを五感と体で覚え、自然に振舞えるように実際の動作を交えて体得する。

2 授業計画

回	項目	内容
1	接遇研修について 自己紹介 医療従事者としての接遇のあり方 接遇の心構え	研修計画概要説明 お辞儀 姿勢
2	接遇の5原則	あいさつ 笑顔 身だしなみ 態度
3	接遇の5原則 職場のコミュニケーション クレーム対応	言葉遣い 敬語について
4	医療機関で働くうえで重要な事	DVDにて復習
5	電話対応	電話対応の3要素 かけ方 受け方
6	電話対応 窓口対応	ロールプレイング グループ学習
7	窓口対応	ロールプレイング グループ学習
8	敬語テスト(復習) 患者にとって歯科衛生士とは？	決意表明

3 授業形態

講義、実習

4 教科書

独自プリントを使用

5 参考図書・資料

研修DVD視聴(授業の進捗に合わせて研修DVDで確認)

6 評価の方法

授業態度10% 試験90%による総合評価とする。

7 その他

歯科医療技術、歯科診療所の建物、設備等だけでは患者を引き止めることが難しいことから、スタッフが気持ちのよいすがすがしい接遇に心がけることにより、結果的に安定した医院経営の一助としたい。

科目名		単位	時間	学年	開講期
看護学概論		1単位	20時間	2学年	後期
担当講師	芝木 美沙子				
実務経験	○	経歴	教員免許・看護師免許を持つ教員が当該科目の教育を行う。		

1 授業目標

看護と言うと、病院で看護師が行う病院への世話と思われがちだが、健康な者へも、健康を保持・増進するための看護(援助)がある。そこで、家庭における看護にも目を向け、基礎的看護技術の習得のため、実技も取り入れた授業を行なう。

2 授業計画

回	項目
1	看護と健康・ライフサイクルについて
2	バイタルサインと観察、疾病について
3	生活習慣病とその予防その予防
4	
5	傷病に対する処置・看護
6	
7	症状に対する処置・看護
8	
9	コミュニケーションと心理的援助、体位交換、車椅子等
10	食事・排泄・清潔等への援助

3 授業形態

講義・実習

4 教科書

使用しない

5 参考図書・資料

全国私立歯科大学・歯学部付属病院看護部長会編「歯科衛生士のための看護学大意」 医歯薬出版

6 評価の方法

定期試験(90%)、受講状況(10%)で総合的に評価する。
受講状況は、ノートにより評価する。

7 その他

高齢化社会が加速化し複雑な合併症を持った患者が増加している。一方で健康に対する意識が深まり、口腔ケアに対する意識も高まっている。そんな中、歯科衛生士の果たす役割も大きい。看護の基本的な概念、看護の基本となるものを学ぶことで、患者との接し方、観察能力を身につけ、専門性に应用できるようになってほしい

科目名		単位	時間	学年	開講期
摂食・嚥下訓練法		1単位	20時間	3学年	前期
担当講師	藤田 浩孝・館 宏				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している摂食嚥下専門医が該当科目の教育を行う。		

1 授業目標

摂食・嚥下障害の概要と摂食機能訓練法の基礎を教授する。
これにより、リハビリテーションの中での歯科衛生士の担う役割を理解させ、実践できる人材を養成していく。

2 授業計画

回	項目	内容
1	摂食指導概論(Ⅰ)	1) 高齢化社会について(死亡率) 2) 摂食、嚥下の基礎的知識(嚥下の5段階)
2	摂食指導概論(Ⅱ)	1) 正常な嚥下運動のメカニズム 2) 摂食、嚥下の生理(嚥下反射、加齢にともなう嚥下機能の変化) 3) 誤嚥と誤嚥性肺炎について 4) 誤嚥のタイプについて
3	各論(Ⅰ)	1) 中途障害における摂食、嚥下障害について 2) 小児障害における摂食、嚥下障害について 3) 摂食、嚥下障害を来す病因と病態について 4) 口腔機能低下症について 5) フレイル・オーラルフレイルについて
4		
5	各論(Ⅱ)	1) 摂食、嚥下障害の診断と評価法 ・反復唾液嚥下テスト(RSST) ・水飲みテスト(30mlと改編水飲みテスト) ・経皮的酸素飽和度モニター ・ビデオ嚥下造影テスト(VF) ・内視鏡(VE) ・テストフードにおける評価 ・超音波エコー検査 その他
6	各論(Ⅲ)	1) 口腔ケアについて (目的、手法、必要物品、姿勢、ビデオ)
7	各論(Ⅳ)	1) 嚥下食について 2) 栄養摂取の方法について (胃ろう、経鼻経管栄養、経口) 3) 嚥下体操 4) リスク管理
8	各論(Ⅴ)	1) 間接訓練、直接訓練と内容について 2) 評価表について 3) 嚥下食について、口腔ケアについて 4) 嚥下に関連する口腔内補助装置について
9		
10	各論(Ⅵ)	摂食指導の実際 症例(3～4) チームアプローチと医療スタッフについて、小テスト

3 授業形態

講義

4 教科書

「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」第2版 医歯薬出版

5 参考図書・資料

プリント

6 評価の方法

定期試験80%および授業内小テスト20%による総合評価とする。

7 その他

現在、「口腔ケア」として他職種に脚光を浴びている科目です。口腔領域の疾患に携わる医療従事者として、今後口腔領域の障害についても関わって行く必要があります。

科目名		単位	時間	学年	開講期
救急蘇生法		1単位	16時間	2学年	後期
担当講師	岡田 益彦 ・ 鳥谷部 純行				
実務経験	○	経歴	病院の歯科口腔外科にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
超高齢社会を迎えた現在、さまざまな全身疾患をもった患者への歯科診療の機会が増えている。 歯科医療従事者として、その際に起きるかもしれない不測の救急事態に対応する知識や適切で正しい救急処置法を習得する。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	歯科診療時の全身的偶発症1		血管迷走神経反射 過換気症候群 薬物アレルギー		
2	歯科診療時の全身的偶発症2		誤飲および誤嚥 1) 誤飲・誤嚥の定義 2) 誤飲・誤嚥の症状 3) 誤飲・誤嚥の予防 4) 誤飲・誤嚥の治療		
3					
4	酸素療法 静脈確保		低酸素の分類 酸素投与法 静脈路確保法		
5	バイタルサイン		バイタルサインの測定法		
6	一次救命処置		一次救命処置と救命の連鎖 成人および小児に対する一次救命処置の手順(講義) 1) 傷病者を発見したとき 2) 傷病者と救助者の安全確認 3) 気道確保 (airway) 4) 呼吸の確認 5) 循環の確認 6) 胸骨圧迫 (circulation) 7) 人工呼吸 (breathing) 8) AEDによる除細動 (defibrillation)		
7			成人および小児に対する一次救命処置の手順(実習) 1) 傷病者を発見したとき 2) 傷病者と救助者の安全確認 3) 気道確保 (airway) 4) 呼吸の確認 5) 循環の確認 6) 胸骨圧迫 (circulation) 7) 人工呼吸 (breathing) 8) AEDによる除細動 (defibrillation)		
8					
3 授業形態					
講義・実習					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」医歯薬出版					
5 参考図書・資料					
DCLSコースガイドブック デンタル・クライシスの初期対応 日本口腔外科学会DCLS開発委員会 監修 へるす出版					
6 評価の方法					
定期試験100%にて評価とする。					
7 その他					
特になし					

科目名		単位	時間	学年	開講期
健康保険請求事務		1単位	16時間	3学年	前期
担当講師	小林 徳栄				
実務経験	○	経歴	歯科医院にて歯科医師業務を実践している 教員が該当科目の教育を行う。		
1 授業目標					
健康保険の種類と意義について歯科衛生士として必要な知識を学ぶ。					
2 授業計画					
回	項目		内容		
1	日本の医療制度の沿革		日本における医療制度の歴史		
2	医療保険制度総論		医療をとりまく法律（関係法規）		
3	療養担当規則		医療現場における実態		
4	歯科医療保険制度		歯科における保険のしくみ		
5	保険請求事務1		基本診療料 検査 画像診断		
6	保険請求事務2		処置 手術 在宅		
7	保険請求事務3		歯冠修復		
8	保険請求事務4		欠損補綴		
3 授業形態					
講 義					
4 教科書					
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 「保健・医療・福祉の制度」 医歯薬出版					
5 参考図書・資料					
歯科診療報酬明細書・点数表					
6 評価の方法					
定期試験100%にて評価とする。					
7 その他					
特になし					